

# 「飲食店における食べ残しの持ち帰りに関するアンケート調査」 結果報告

## 【目次】

1. 調査の概要.....	2
2. 事前調査の結果.....	12
2.1 「mottECO（もってこ）」の認知について.....	12
2.2 食べ残しの持ち帰り経験について.....	15
2.2.1 食べ残しの持ち帰り経験について（2021年）.....	15
2.2.2 食べ残しの持ち帰り経験について（2020年以前）.....	18
3. 本調査の結果.....	21
3.1 飲食店の取組に対する評価.....	21
3.2 飲食店での食べ残しの持ち帰りに関する認知度・認知機会.....	22
3.2.1 飲食店での食べ残しの持ち帰りに関する認知度.....	22
3.2.2 飲食店での食べ残しの持ち帰りに関する認知機会.....	23
3.3 食べ残しの持ち帰り経験について.....	23
3.3.1 飲食店での食べ残しの頻度.....	23
3.3.2 飲食店での食べ残しの持ち帰り頻度（持ち帰り経験あり）.....	24
3.3.3 持ち帰りを行ったことがある飲食店（持ち帰り経験あり）.....	24
3.4 持ち帰りの具体的な状況.....	25
3.5 食べ残しの持ち帰りの意向について.....	31
3.5.1 食べ残しの持ち帰り意向について.....	31
3.5.2 食べ残しを持ち帰りたと思う理由について.....	32
3.5.3 食べ残しを持ち帰りたと思わない理由について.....	34
3.5.4 飲食店から持ち帰りができる旨を伝えられた場合の意向.....	36
3.6 食べ残しの持ち帰りの普及について.....	37
3.6.1 食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類.....	37
3.6.2 「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージの掲示場所について.....	39
3.6.3 食べ残しを持ち帰りたと思うメッセージについて.....	41

## 1. 調査の概要

環境省では、令和2年度に「New ドギーバッグアイデアコンテスト」を開催し、「mottECO（もってこ）」を新たなネーミングとした飲食店の食べ残しの持ち帰り促進を行っている。今後、「mottECO（もってこ）」の普及を図ることを目的として、インターネット消費者アンケート調査を実施し、取りまとめを行い、調査結果を基に考察を行った。

具体的には、Web モニターを対象とした消費者アンケート調査をもとに、飲食店での食べ残しの持ち帰りを推進する取組の認知度、食べ残しの持ち帰り経験及び具体的な状況、及び食べ残しの持ち帰りの普及推進に向けて必要な情報等について、把握を行った。

なお、調査は2段階で実施し、スクリーニング調査より食べ残しの持ち帰り経験の有無により、本調査の回答者を抽出した。なお、回答者は18歳以上を対象とした。

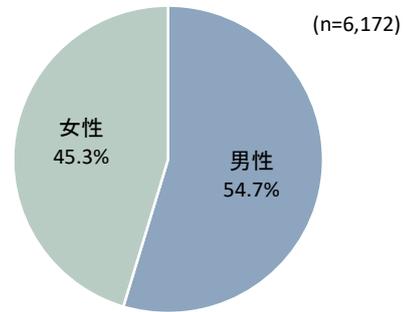
図表 1 飲食店における食べ残しの持ち帰りに関するアンケートの実施概要

- 調査期間：2022年2月22日～2月25日
- 調査方法：民間調査会社に登録する Web モニターを対象とした消費者アンケート
- 調査対象：スクリーニング調査を実施し、本調査における回答件数が以下となるように割り付けを行った。
  - ◇ 過去1年（2021年）に「持ち帰り経験あり」1,250件、「持ち帰り経験なし」1,250件
  - ◇ 年代ごとに均等に割り付け（5区分、18歳～29歳、30代、40代、50代、60代以上）
  - ◇ 都市規模で均等に割り付け（3区分、政令指定都市・特別区、中核市、その他）
- 主な調査項目
  - <スクリーニング調査（n=6,172）>
    - ・「mottECO（もってこ）」の認知について
    - ・食べ残しの持ち帰り経験について（2021年、2020年以前）
  - <本調査（n=2,500）>
    - ①食べ残しの持ち帰りを推進する取組の認知について
      - ・飲食店の取組に対する評価
      - ・食べ残しの持ち帰り推進に関する認知度
      - ・食べ残しの持ち帰り推進に関する認知機会
    - ②食べ残しの持ち帰り経験について
      - ・飲食店での食べ残しの頻度
      - ・飲食店での持ち帰りの頻度
      - ・持ち帰りを行ったことがある飲食店と具体的な状況
        - ◇ 飲食店の種類
        - ◇ 一人当たりの食事の金額
        - ◇ 持ち帰り時の当該飲食店への来店回数
        - ◇ 来店の時間帯
        - ◇ 食事の提供形態
        - ◇ 同伴者、同伴者数の人数
        - ◇ 食事の目的
        - ◇ 持ち帰った食品の喫食
    - ③食べ残しの持ち帰りの意向について
      - ・食べ残しを持ち帰りたいと思う理由、思わない理由

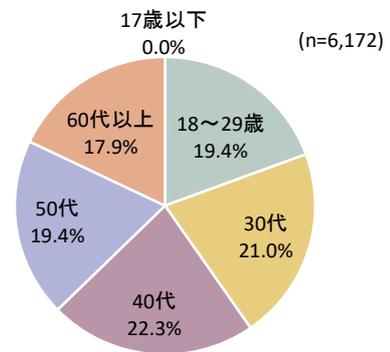
- ・飲食店から持ち帰りができる旨を伝えられた場合の意向
- ④食べ残しの持ち帰りの普及について
  - ・食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類
  - ・「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージの掲示場所
  - ・食べ残しを持ち帰りたいと思うメッセージ

図表 2 事前調査の回答者属性 (n= 6,172)

性別	n	%
単一回答		
男性	3,373	54.7
女性	2,799	45.3
全体	6,172	100.0



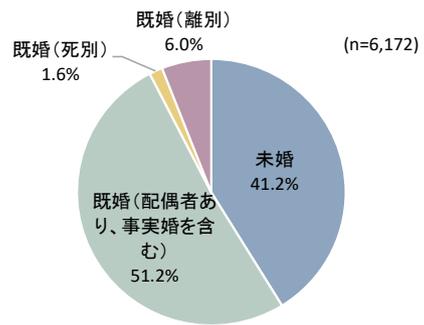
年齢	n	%
単一回答		
17歳以下	0	0.0
18～29歳	1,197	19.4
30代	1,294	21.0
40代	1,378	22.3
50代	1,198	19.4
60代以上	1,105	17.9
全体	6,172	100.0



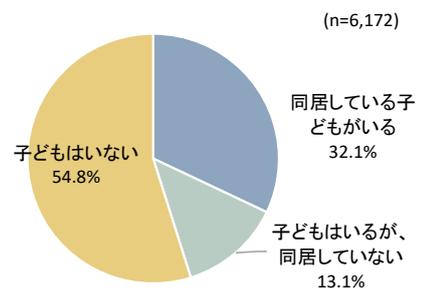
都道府県		
単一回答	n	%
北海道	263	4.3
青森県	68	1.1
岩手県	42	0.7
宮城県	97	1.6
秋田県	42	0.7
山形県	62	1.0
福島県	99	1.6
茨城県	132	2.1
栃木県	95	1.5
群馬県	88	1.4
埼玉県	394	6.4
千葉県	319	5.2
東京都	839	13.6
神奈川県	496	8.0
新潟県	73	1.2
富山県	65	1.1
石川県	61	1.0
福井県	23	0.4
山梨県	31	0.5
長野県	105	1.7
岐阜県	81	1.3
静岡県	129	2.1
愛知県	375	6.1
三重県	65	1.1
滋賀県	62	1.0
京都府	126	2.0
大阪府	505	8.2
兵庫県	342	5.5
奈良県	88	1.4
和歌山県	52	0.8
鳥取県	31	0.5
島根県	28	0.5
岡山県	94	1.5
広島県	123	2.0
山口県	50	0.8
徳島県	23	0.4
香川県	53	0.9
愛媛県	69	1.1
高知県	33	0.5
福岡県	168	2.7
佐賀県	18	0.3
長崎県	47	0.8
熊本県	41	0.7
大分県	43	0.7
宮崎県	35	0.6
鹿児島県	63	1.0
沖縄県	34	0.6
全体	6,172	100.0

地域		
単一回答	n	%
東京23区	595	9.6
大阪市	160	2.6
名古屋市	116	1.9
京都市	78	1.3
横浜市	219	3.5
神戸市	82	1.3
北九州市	36	0.6
札幌市	134	2.2
川崎市	86	1.4
福岡市	68	1.1
広島市	47	0.8
仙台市	59	1.0
千葉市	55	0.9
さいたま市	75	1.2
静岡市	27	0.4
堺市	40	0.6
新潟市	37	0.6
浜松市	32	0.5
岡山市	44	0.7
相模原市	31	0.5
熊本市	25	0.4
宇都宮市	53	0.9
金沢市	45	0.7
岐阜市	38	0.6
姫路市	50	0.8
鹿児島市	42	0.7
秋田市	28	0.5
郡山市	27	0.4
和歌山市	37	0.6
長崎市	15	0.2
大分市	35	0.6
豊田市	38	0.6
福山市	33	0.5
高知市	25	0.4
宮崎市	26	0.4
いわき市	21	0.3
長野市	43	0.7
豊橋市	22	0.4
高松市	36	0.6
旭川市	29	0.5
松山市	49	0.8
横須賀市	31	0.5
奈良市	38	0.6
倉敷市	40	0.6
川越市	39	0.6
船橋市	71	1.2
岡崎市	28	0.5
高槻市	32	0.5
東大阪市	46	0.7
富山市	41	0.7
函館市	23	0.4
下関市	17	0.3
青森市	21	0.3
盛岡市	23	0.4
柏市	36	0.6
西宮市	45	0.7
久留米市	22	0.4
前橋市	23	0.4
大津市	32	0.5
尼崎市	50	0.8
高崎市	33	0.5
豊中市	29	0.5
那覇市	20	0.3
枚方市	37	0.6
八王子市	64	1.0
越谷市	36	0.6
呉市	10	0.2
佐世保市	20	0.3
八戸市	20	0.3
福島市	24	0.4
川口市	66	1.1
八尾市	19	0.3
明石市	35	0.6
鳥取市	19	0.3
松江市	18	0.3
山形市	22	0.4
福井市	15	0.2
甲府市	14	0.2
寝屋川市	22	0.4
水戸市	33	0.5
吹田市	26	0.4
松本市	19	0.3
一宮市	40	0.6
その他の市町村	2,135	34.6
全体	6,172	100.0

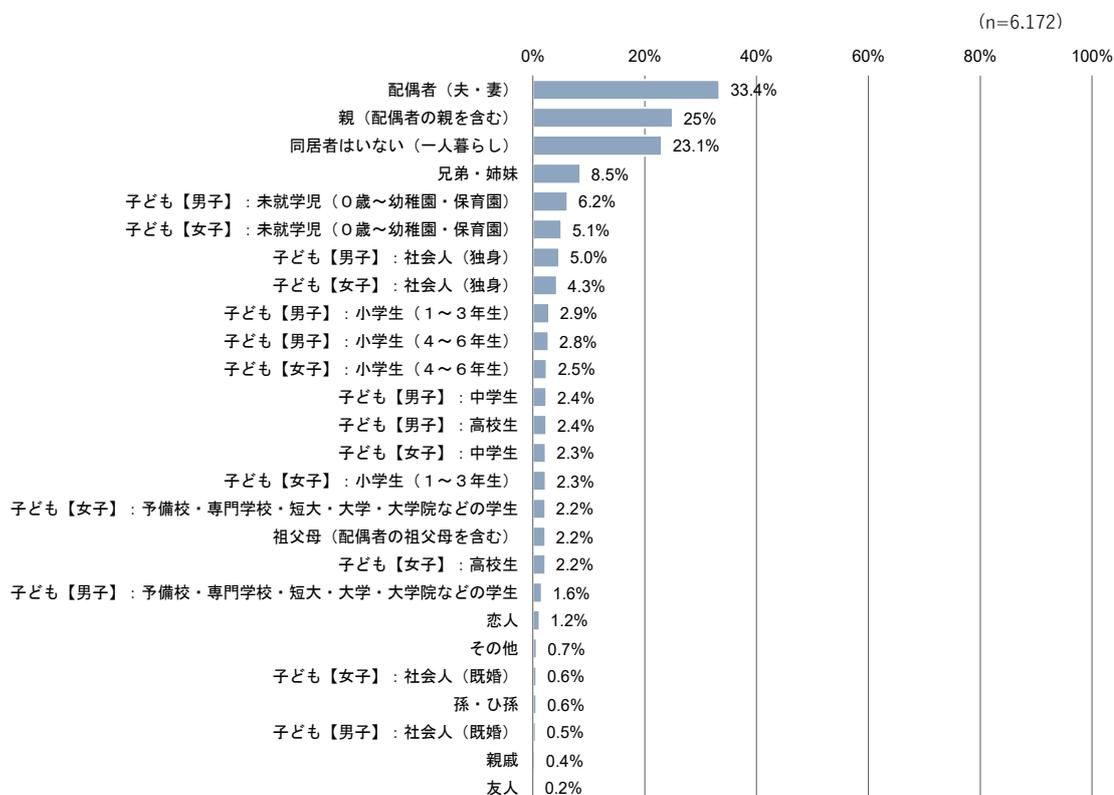
配偶者の有無		
単一回答	n	%
未婚	2,544	41.2
既婚（配偶者あり、事実婚を含む）	3,160	51.2
既婚（死別）	98	1.6
既婚（離別）	370	6.0
全体	6,172	100.0



子どもの有無		
単一回答	n	%
同居している子どもがいる	1,980	32.1
子どもはいるが、同居していない	807	13.1
子どもはいない	3,385	54.8
全体	6,172	100.0

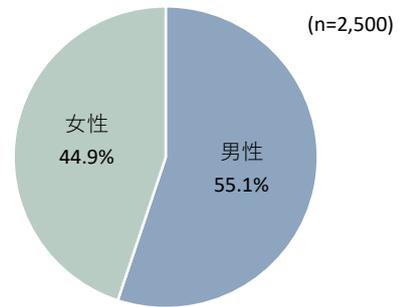


同居家族 複数回答	n	%
配偶者（夫・妻）	2,064	33.4
親（配偶者の親を含む）	1,540	25.0
同居者はいない（一人暮らし）	1,427	23.1
兄弟・姉妹	523	8.5
子ども【男子】：未就学児（0歳～幼稚園・保育園）	383	6.2
子ども【女子】：未就学児（0歳～幼稚園・保育園）	316	5.1
子ども【男子】：社会人（独身）	291	4.7
子ども【女子】：社会人（独身）	263	4.3
子ども【男子】：小学生（1～3年生）	179	2.9
子ども【男子】：小学生（4～6年生）	173	2.8
子ども【女子】：小学生（4～6年生）	154	2.5
子ども【男子】：中学生	151	2.4
子ども【男子】：高校生	149	2.4
子ども【女子】：中学生	144	2.3
子ども【女子】：小学生（1～3年生）	142	2.3
子ども【女子】：予備校・専門学校・短大・大学・大学院などの学生	137	2.2
祖父母（配偶者の祖父母を含む）	135	2.2
子ども【女子】：高校生	134	2.2
子ども【男子】：予備校・専門学校・短大・大学・大学院などの学生	100	1.6
恋人	71	1.2
その他	42	0.7
子ども【女子】：社会人（既婚）	40	0.6
孫・ひ孫	35	0.6
子ども【男子】：社会人（既婚）	29	0.5
親戚	25	0.4
友人	13	0.2
全体	6,172	100.0

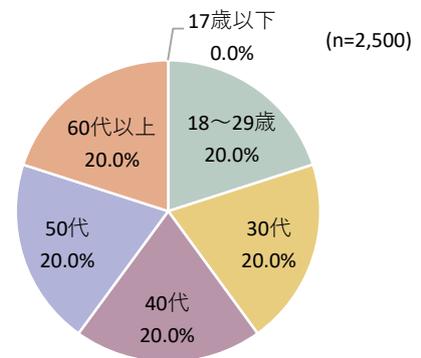


図表 3 本調査の回答者属性 (n=2,500)

性別	n	%
単一回答		
男性	1,377	55.1
女性	1,123	44.9
全体	2,500	100.0



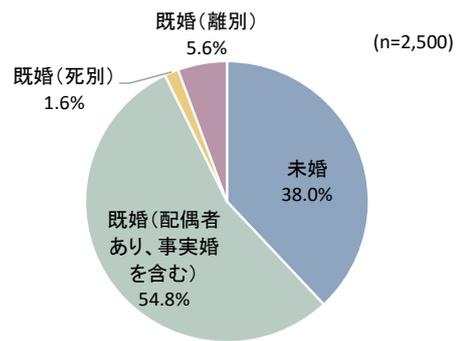
年齢	n	%
単一回答		
17歳以下	0	0.0
18～29歳	500	20.0
30代	500	20.0
40代	500	20.0
50代	500	20.0
60代以上	500	20.0
全体	2,500	100.0



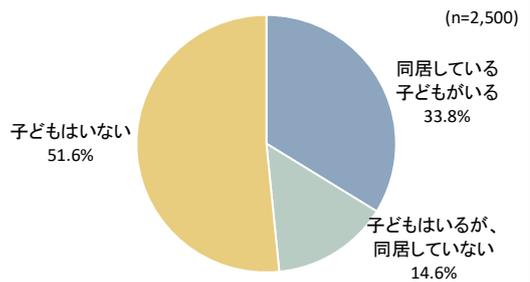
都道府県	n	%
単一回答		
北海道	105	4.2
青森県	33	1.3
岩手県	21	0.8
宮城県	31	1.2
秋田県	18	0.7
山形県	27	1.1
福島県	36	1.4
茨城県	56	2.2
栃木県	32	1.3
群馬県	35	1.4
埼玉県	155	6.2
千葉県	138	5.5
東京都	346	13.8
神奈川県	195	7.8
新潟県	29	1.2
富山県	33	1.3
石川県	20	0.8
福井県	8	0.3
山梨県	14	0.6
長野県	41	1.6
岐阜県	40	1.6
静岡県	49	2.0
愛知県	156	6.2
三重県	31	1.2
滋賀県	23	0.9
京都府	50	2.0
大阪府	192	7.7
兵庫県	131	5.2
奈良県	34	1.4
和歌山県	26	1.0
鳥取県	14	0.6
島根県	9	0.4
岡山県	48	1.9
広島県	49	2.0
山口県	22	0.9
徳島県	8	0.3
香川県	23	0.9
愛媛県	29	1.2
高知県	13	0.5
福岡県	61	2.4
佐賀県	7	0.3
長崎県	17	0.7
熊本県	14	0.6
大分県	14	0.6
宮崎県	17	0.7
鹿児島県	31	1.2
沖縄県	19	0.8
全体	2,500	100.0

地域	n	%
単一回答		
東京23区	257	10.3
大阪市	71	2.8
名古屋市	47	1.9
京都市	35	1.4
横浜市	85	3.4
神戸市	29	1.2
北九州市	14	0.6
札幌市	52	2.1
川崎市	24	1.0
福岡市	27	1.1
広島市	18	0.7
仙台市	21	0.8
千葉市	21	0.8
さいたま市	32	1.3
静岡市	13	0.5
堺市	15	0.6
新潟市	17	0.7
浜松市	10	0.4
岡山市	25	1.0
相模原市	14	0.6
熊本市	7	0.3
宇都宮市	15	0.6
金沢市	14	0.6
岐阜市	18	0.7
姫路市	22	0.9
鹿児島市	24	1.0
秋田市	14	0.6
郡山市	11	0.4
和歌山市	19	0.8
長崎市	5	0.2
大分市	12	0.5
豊田市	16	0.6
福山市	11	0.4
高知市	10	0.4
宮崎市	11	0.4
いわき市	5	0.2
長野市	14	0.6
豊橋市	11	0.4
高松市	21	0.8
旭川市	9	0.4
松山市	21	0.8
横須賀市	17	0.7
奈良市	17	0.7
倉敷市	20	0.8
川越市	22	0.9
船橋市	36	1.4
岡崎市	12	0.5
高槻市	8	0.3
東大阪市	15	0.6
富山市	21	0.8
函館市	10	0.4
下関市	9	0.4
青森市	13	0.5
盛岡市	12	0.5
柏市	21	0.8
西宮市	20	0.8
久留米市	6	0.2
前橋市	10	0.4
大津市	10	0.4
尼崎市	19	0.8
高崎市	10	0.4
豊中市	11	0.4
那覇市	8	0.3
枚方市	13	0.5
八王子市	24	1.0
越谷市	6	0.2
呉市	4	0.2
佐世保市	8	0.3
八戸市	9	0.4
福島市	13	0.5
川口市	27	1.1
八尾市	9	0.4
明石市	16	0.6
鳥取市	9	0.4
松江市	7	0.3
山形市	14	0.6
福井市	7	0.3
甲府市	5	0.2
寝屋川市	8	0.3
水戸市	15	0.6
吹田市	5	0.2
松本市	9	0.4
一宮市	15	0.6
その他の市町村	833	33.3
全体	2,500	100.0

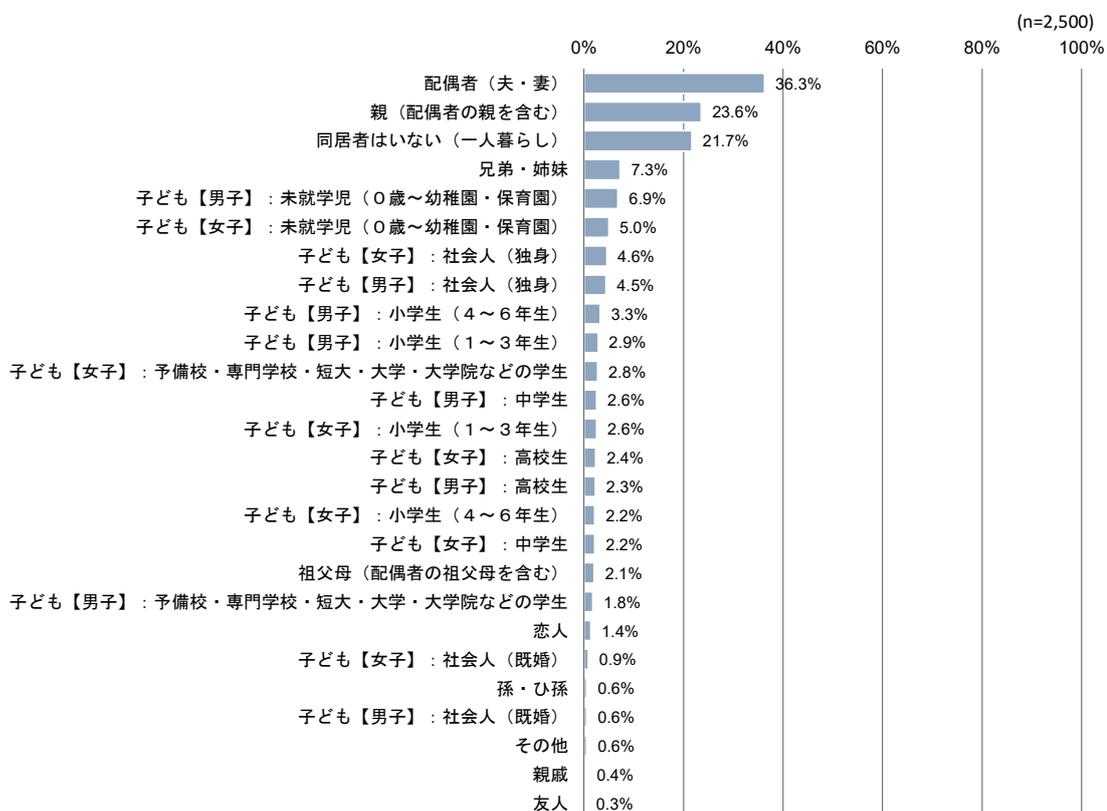
配偶者の有無		
単一回答	n	%
未婚	951	38.0
既婚（配偶者あり、事実婚を含む）	1,369	54.8
既婚（死別）	40	1.6
既婚（離別）	140	5.6
全体	2,500	100.0



子どもの有無		
単一回答	n	%
同居している子どもがいる	845	33.8
子どもはいるが、同居していない	365	14.6
子どもはいない	1,290	51.6
全体	2,500	100.0



同居家族		
複数回答	n	%
配偶者（夫・妻）	908	36.3
親（配偶者の親を含む）	591	23.6
同居者はいない（一人暮らし）	542	21.7
兄弟・姉妹	183	7.3
子ども【男子】：未就学児（0歳～幼稚園・保育園）	173	6.9
子ども【女子】：未就学児（0歳～幼稚園・保育園）	126	5.0
子ども【女子】：社会人（独身）	116	4.6
子ども【男子】：社会人（独身）	113	4.5
子ども【男子】：小学生（4～6年生）	82	3.3
子ども【男子】：小学生（1～3年生）	72	2.9
子ども【女子】：予備校・専門学校・短大・大学・大学院などの学生	70	2.8
子ども【男子】：中学生	64	2.6
子ども【女子】：小学生（1～3年生）	64	2.6
子ども【女子】：高校生	60	2.4
子ども【男子】：高校生	58	2.3
子ども【女子】：小学生（4～6年生）	56	2.2
子ども【女子】：中学生	56	2.2
祖父母（配偶者の祖父母を含む）	53	2.1
子ども【男子】：予備校・専門学校・短大・大学・大学院などの学生	45	1.8
恋人	34	1.4
子ども【女子】：社会人（既婚）	23	0.9
孫・ひ孫	15	0.6
子ども【男子】：社会人（既婚）	14	0.6
その他	14	0.6
親戚	11	0.4
友人	7	0.3
全体	2,500	100.0

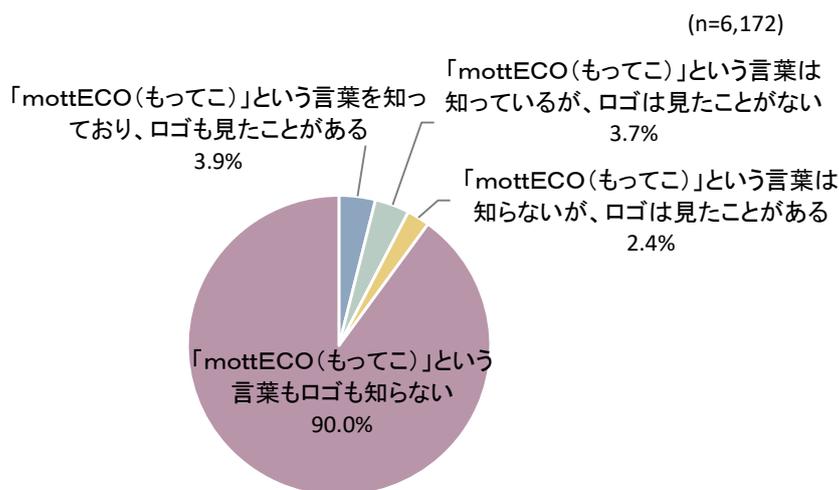


## 2. 事前調査の結果

### 2.1 「mottECO（もってこ）」の認知について

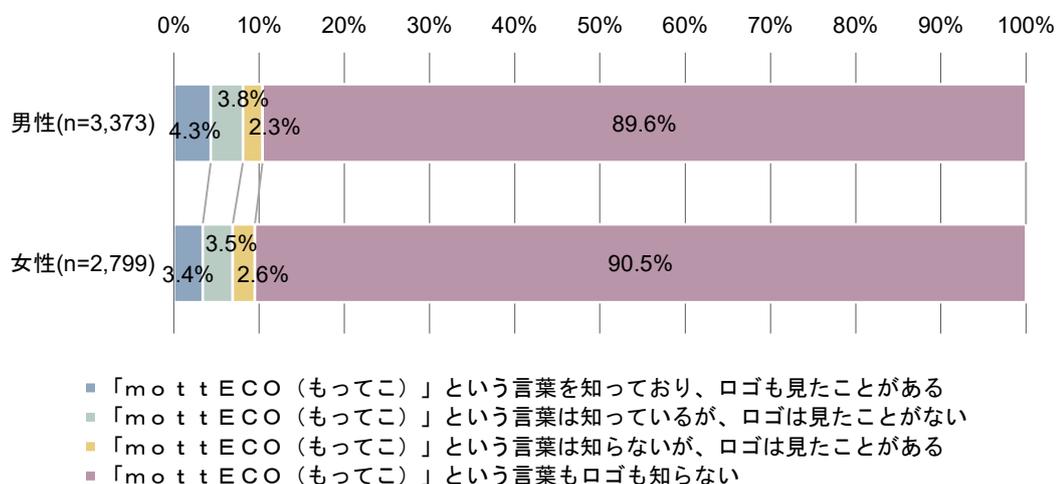
環境省が2020年10月に「外出時の食べ残しを持ち帰る行為」を「mottECO（もってこ）」という名称にすることを公表したことを踏まえて、「mottECO（もってこ）」という言葉とロゴの認知度を伺った。「言葉を知っており、ロゴも見たことがある」が240件（3.9%）、「言葉は知っているが、ロゴは見たことがない」が227件（3.7%）、「言葉は知らないが、ロゴは見たことがある」が150件（2.4%）、「言葉もロゴも知らない」が5,555件（90.0%）であった。

図表4 「mottECO（もってこ）」の認知について



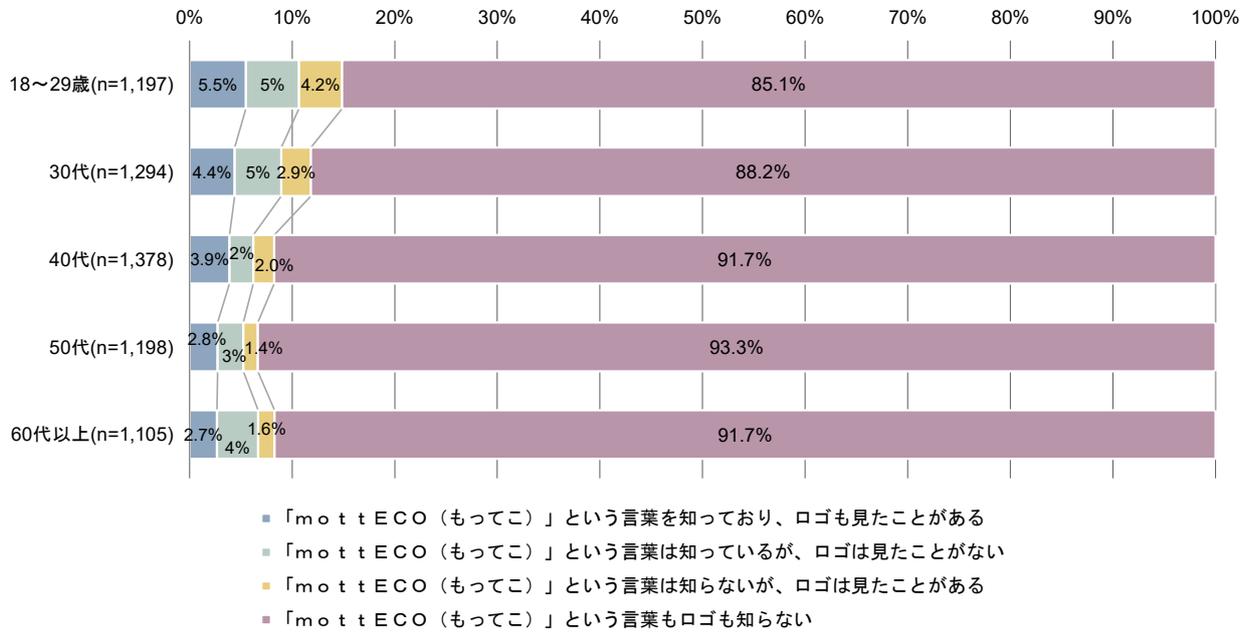
「mottECO（もってこ）」という言葉とロゴの認知度について、男女によるクロス集計分析を行った。「言葉を知っており、ロゴも見たことがある」については男性が4.3%、女性が3.4%、「言葉は知っているが、ロゴは見たことがない」については男性が3.8%、女性が3.5%、「言葉は知らないが、ロゴは見たことがある」は男性が2.3%、女性が2.6%であった。言葉の認知度は男性、ロゴの認知度は女性においてやや高い傾向が見られるが、大きな差は確認されなかった。

図表5 「mottECO（もってこ）」の認知について（男女別）



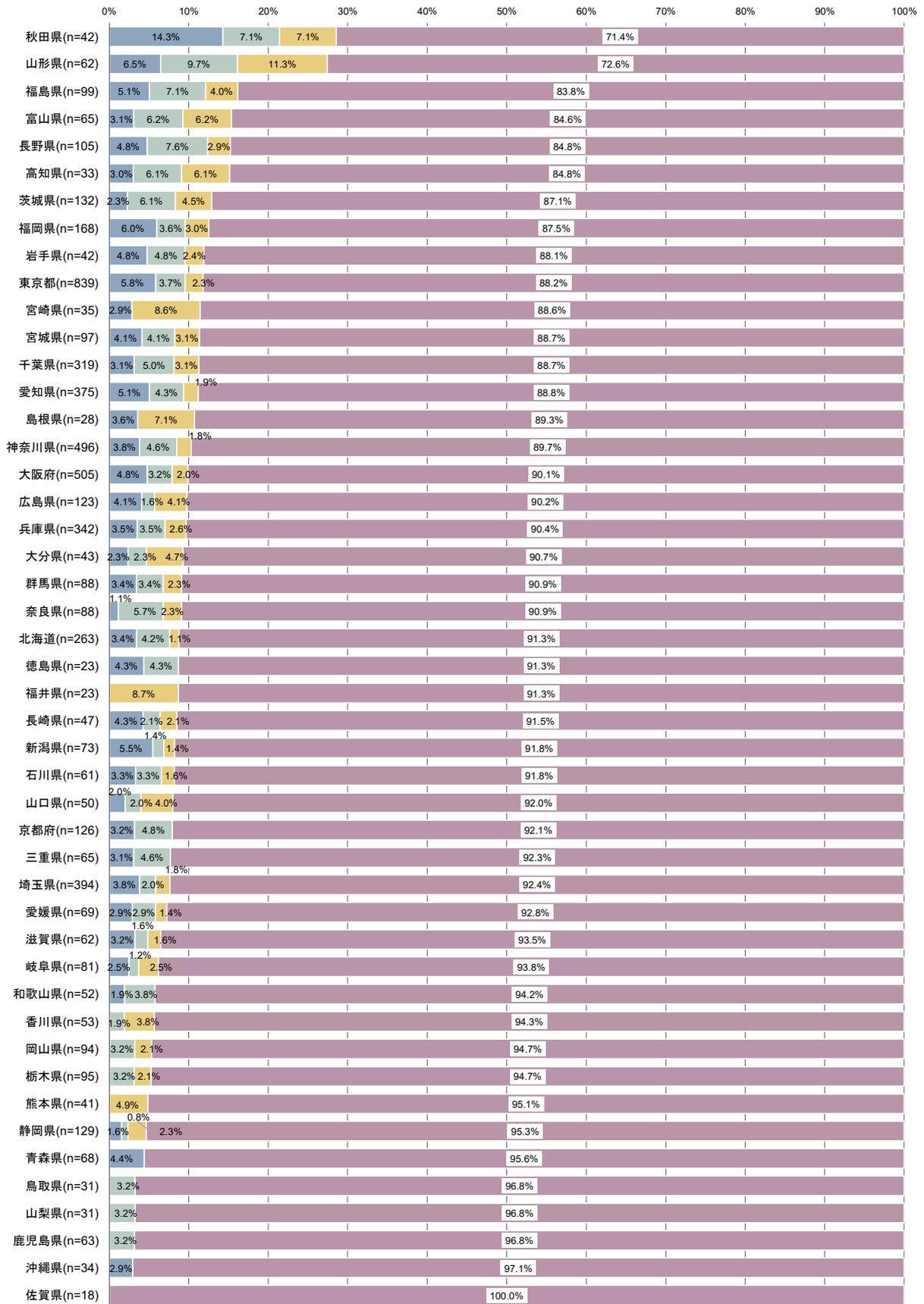
「mottECO（もってこ）」という言葉とロゴの認知度について、世代別のクロス集計分析を行った。言葉とロゴの両方を合わせた認知度は、18歳～29歳が14.9%、30代が11.8%、40代が8.3%、50代が6.7%、60代以上が8.3%であり、若い世代において認知度がより高い傾向となった。

図表 6 「mottECO（もってこ）」の認知について（世代別）



「mottECO（もってこ）」という言葉とロゴの認知度について、都道府県別のクロス集計分析を行った。言葉とロゴの両方を合わせた認知度は、「秋田県」（28.6%）が最も高く、「山形県」（27.4%）、「福島県」（16.2%）と続く。

図表 7 「mottECO (もってこ)」の認知について (都道府県別)



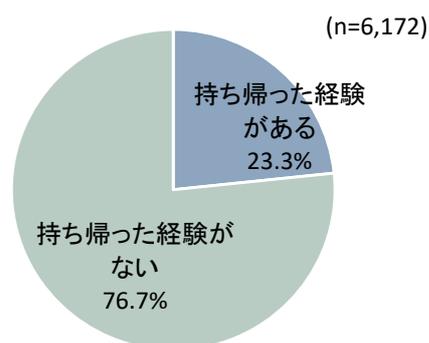
- 「mottECO (もってこ)」という言葉を知っており、ロゴも見たいことがある
- 「mottECO (もってこ)」という言葉は知っているが、ロゴは見たいことがない
- 「mottECO (もってこ)」という言葉は知らないが、ロゴは見たいことがある
- 「mottECO (もってこ)」という言葉もロゴも知らない

## 2.2 食べ残しの持ち帰り経験について

### 2.2.1 食べ残しの持ち帰り経験について（2021年）

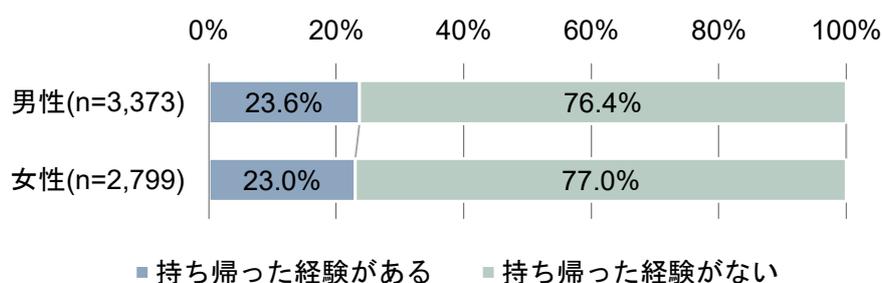
2021年に食べ残しを持ち帰った経験については、「持ち帰った経験がある」が1,441件（23.3%）、「持ち帰った経験がない」が4,731件（76.7%）であった。

図表 8 食べ残しの持ち帰り経験（2021年）



2021年に食べ残しを持ち帰った経験について、男女によるクロス集計分析を行った。男性では「持ち帰った経験がある人」が23.6%、女性では同割合が23.0%となり、大きな差は確認されなかった。

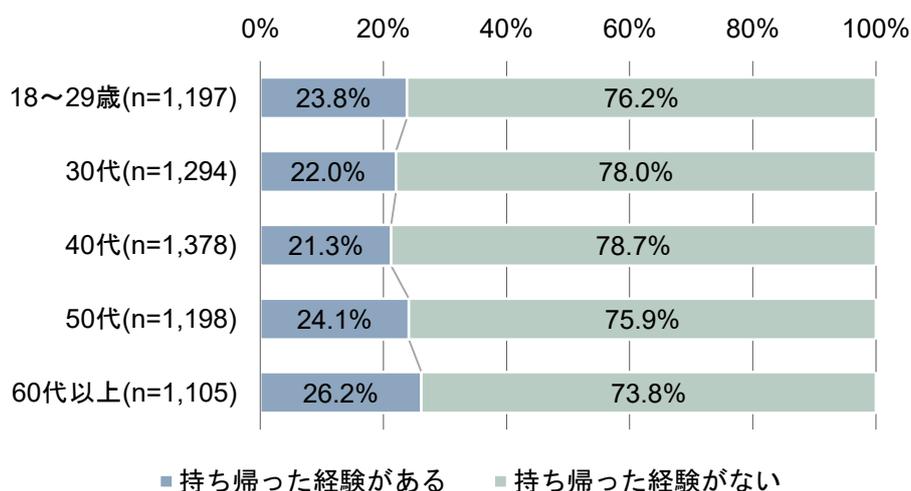
図表 9 食べ残しの持ち帰り経験（2021年）（男女別）



2021年に食べ残しを持ち帰った経験について、世代によるクロス集計分析を行った。60代以上が最も多く26.2%、次いで50代が24.1%、18~29歳が23.8%と続く。

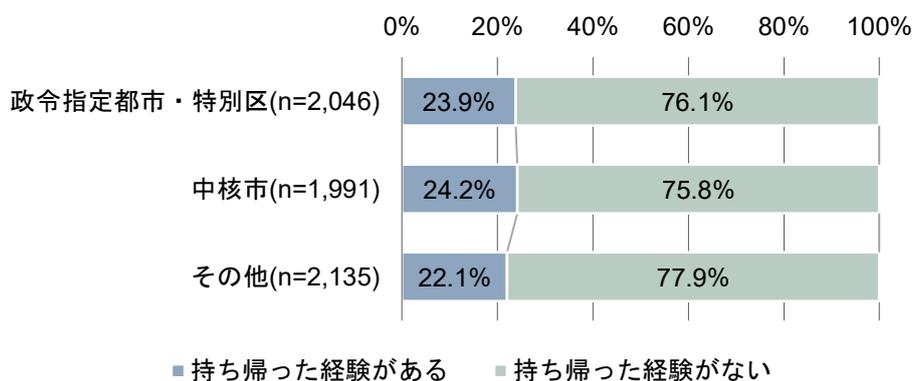
30代、40代は「持ち帰った経験がある人」が比較的少なく、高い年代層（60代以上、50代）は「持ち帰った経験がある人」の割合が比較的高い。

図表 10 食べ残しを持ち帰り経験（2021年）（世代別）



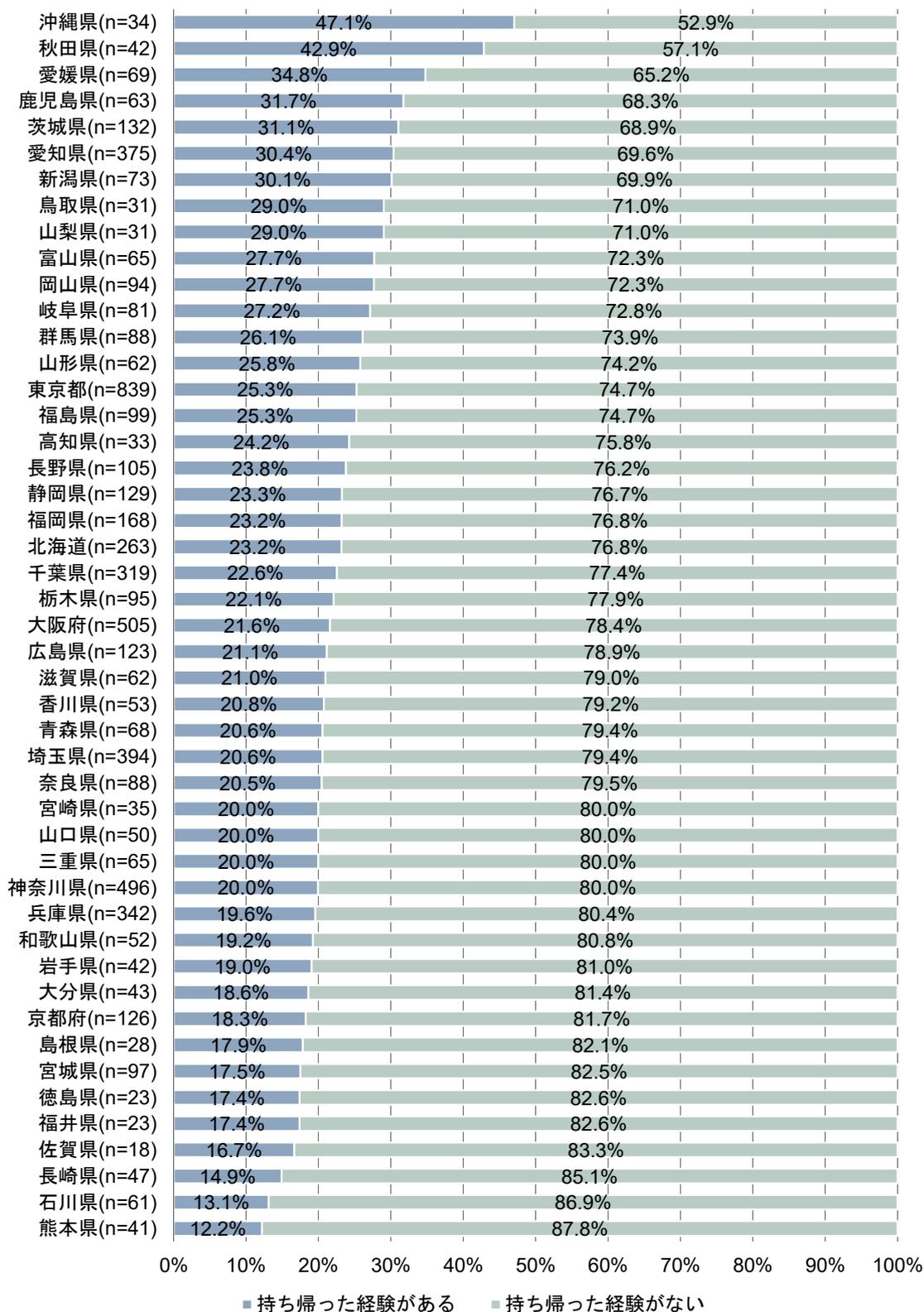
2021年に食べ残しを持ち帰った経験について、都市規模別にクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」人の割合は、「中核市」（24.2%）が最も多く、次いで「政令指定都市・特別区」（23.9%）、「その他」（22.1%）となっている。「その他」に比較して「政令指定都市・特別区」、「中核市」の方が「持ち帰った経験がある」人が多い傾向にあった。

図表 11 食べ残しを持ち帰り経験（2021年）（都市規模別）



2021年に食べ残しを持ち帰った経験について、都道府県別にクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」人の割合は「沖縄県」(47.1%)が最も多く、次いで「秋田県」(42.9%)、「愛媛県」(34.8%)と続く。

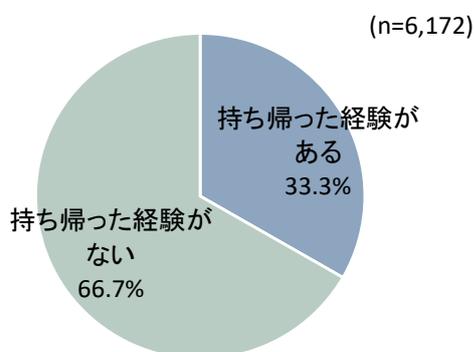
図表 12 食べ残しを持ち帰り経験 (2021年) (都道府県別)



### 2.2.2 食べ残しの持ち帰り経験について（2020年以前）

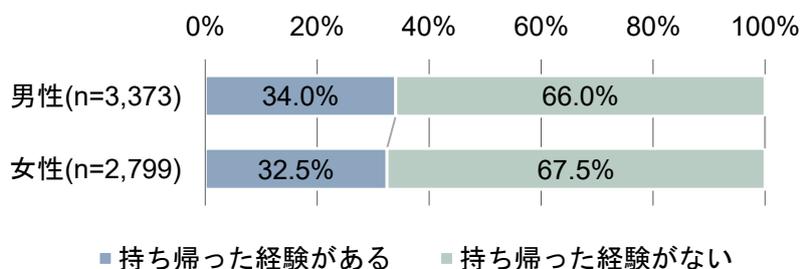
2020年以前に食べ残しを持ち帰った経験については、「持ち帰った経験がある」が2,057件（33.3%）、「持ち帰った経験がない」が4,115件（66.7%）であった。

図表 13 食べ残しの持ち帰り経験（2020年以前）



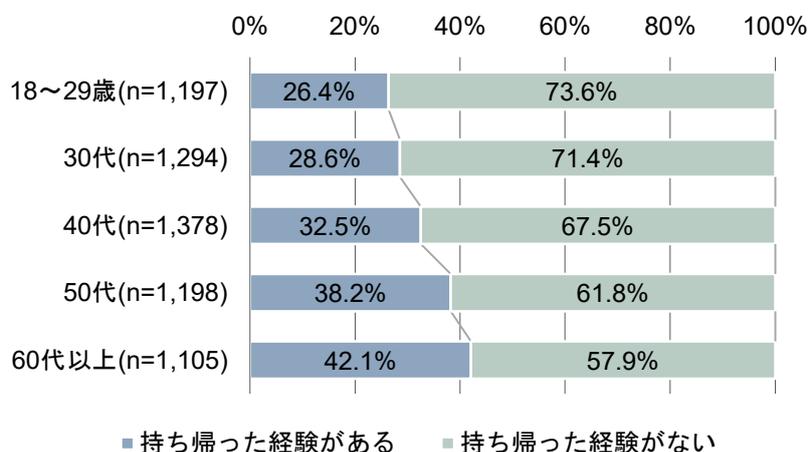
2020年に食べ残しを持ち帰った経験について、男女によるクロス集計分析を行った。男性では「持ち帰った経験がある人」が34.0%、女性では同割合が32.5%となり、大きな差は確認されないが、男性の方が持ち帰った経験がある人の割合がやや高かった。

図表 14 食べ残しの持ち帰り経験（2020年以前）（男女別）



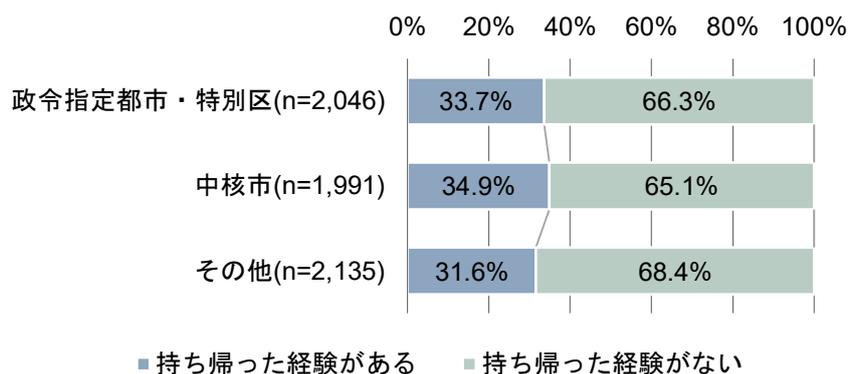
2020年以前に食べ残しを持ち帰った経験について、世代によるクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」と回答した人の割合が最も多かったのが「60代以上」(42.1%)、次いで「50代」(38.2%)、「40代」(32.5%)、「30代」(28.6%)、「18～29歳」(26.4%)となっており、年代が上がるにつれて「持ち帰った経験がある人」が増加する傾向にあった。

図表 15 食べ残しを持ち帰り経験 (2020年以前) (世代別)



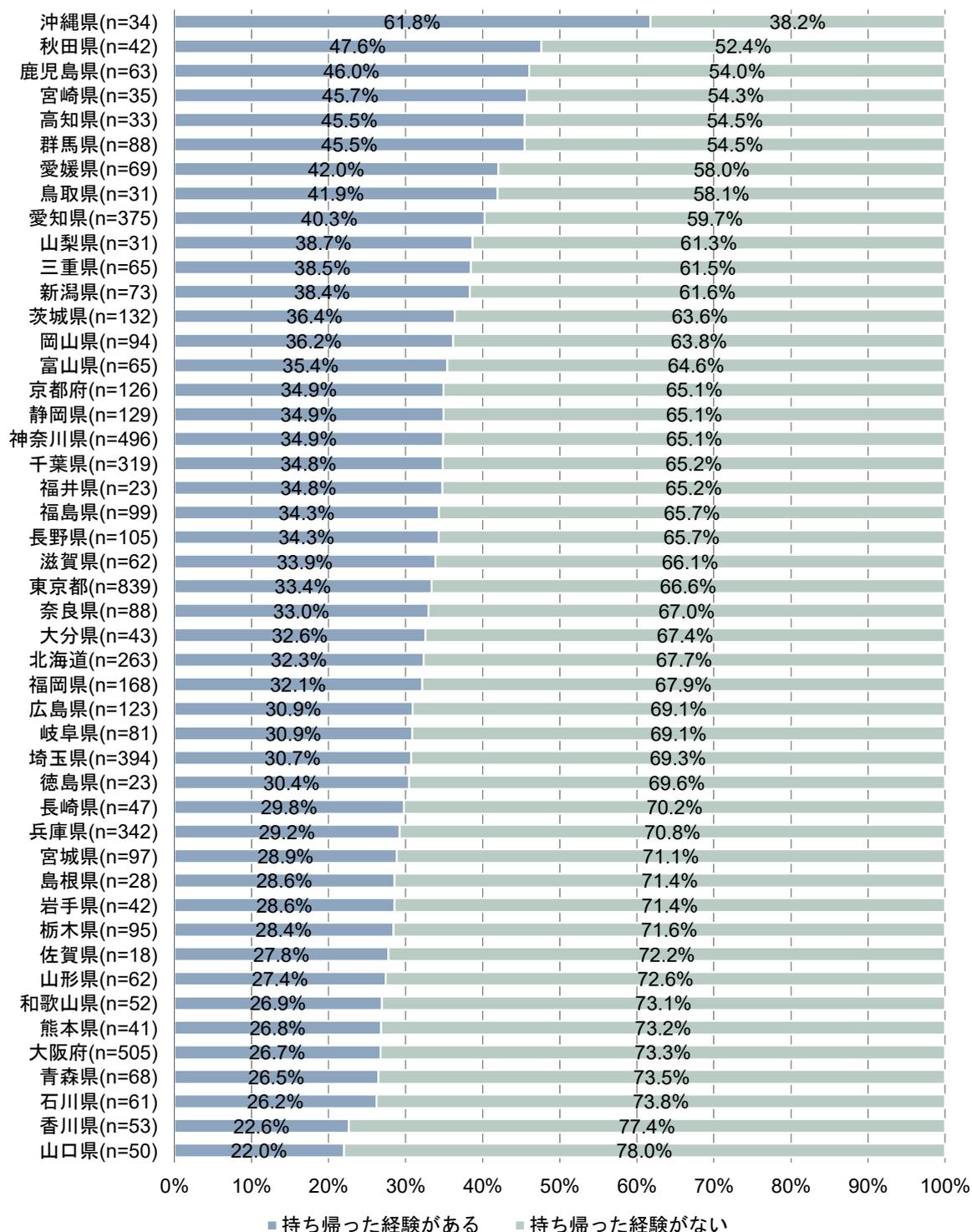
2020年以前に食べ残しを持ち帰った経験について、都市規模別にクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」人の割合は、「中核市」(34.9%)が最も多く、次いで「政令指定都市・特別区」(33.7%)、その他(31.6%)となっている。「その他」に比較して「政令指定都市・特別区」、「中核市」の方が「持ち帰った経験がある」人が多い傾向にあった。

図表 16 食べ残しを持ち帰り経験 (2020年以前) (都市規模別)



2020年以前に食べ残しを持ち帰った経験について、都道府県別にクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」人の割合は「沖縄県」(61.8%)が最も多く、次いで「秋田県」(47.6%)、「鹿児島県」(46.0%)と続く。

図表 17 食べ残しを持ち帰り経験 (2020年以前) (都道府県別)



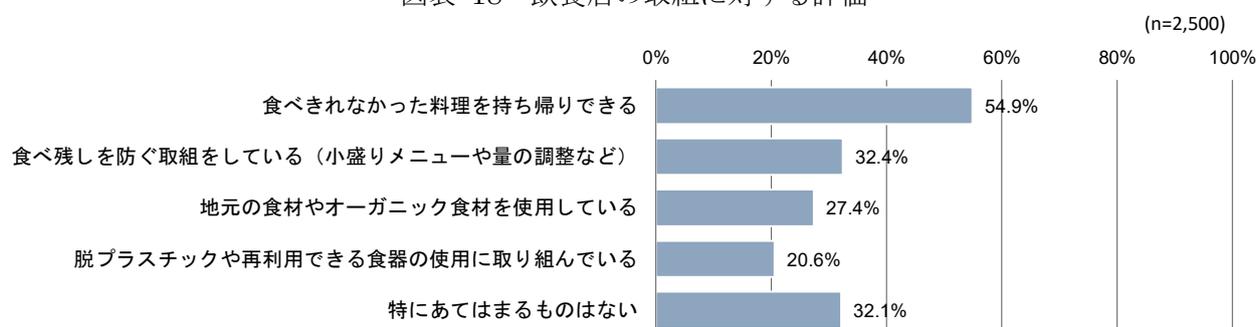
### 3. 本調査の結果

事前調査において、食べ残しの持ち帰り経験の有無を把握し、過去1年(2021年)に「持ち帰り経験あり」との回答者1,250件、「持ち帰り経験なし」との回答者1,250件、合計2,500件をサンプルとして、詳細な調査を行った。

#### 3.1 飲食店の取組に対する評価

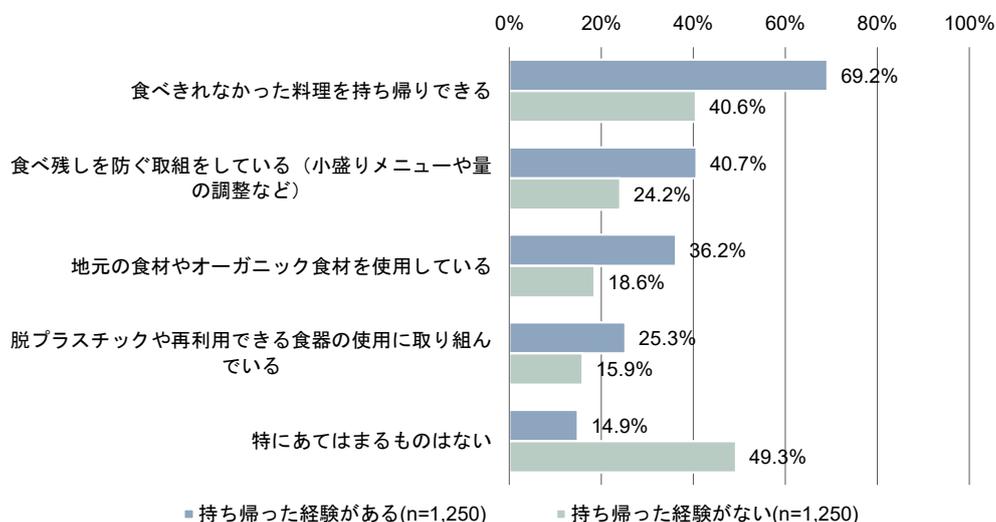
飲食店が以下のような取組を行っているを知った場合、その飲食店をより利用したいと思うかを複数回答で伺ったところ、「食べきれなかった料理を持ち帰りできる」が最も多く54.9%(1,370件)、次いで「食べ残しを防ぐ取組をしている(小盛りメニューや量の調整など)」32.4%(811件)、「地元の食材やオーガニック食材を使用している」27.4%(685件)、「脱プラスチックや再利用できる食器の使用に取り組んでいる」20.6%(515件)であった。

図表 18 飲食店の取組に対する評価



飲食店における取組の評価について、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。「食べきれなかった料理を持ち帰りできる」、「食べ残しを防ぐ取組をしている(小盛りメニューや量の調整など)」、「地元の食材やオーガニック食材を使用している」、「脱プラスチックや再利用できる食器の使用に取り組んでいる」の全ての項目において、「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて、そうした取組をしている飲食店を利用したいと思う傾向が高かった。

図表 19 飲食店の取組に対する評価 (2021年に持ち帰りの経験あり/なし)

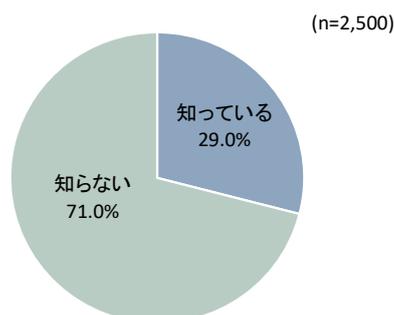


### 3.2 飲食店での食べ残しの持ち帰りに関する認知度・認知機会

#### 3.2.1 飲食店での食べ残しの持ち帰りに関する認知度

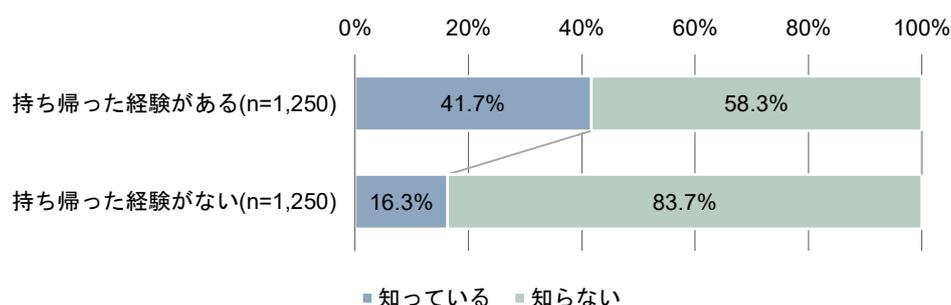
国や自治体等が、食品ロス削減のために飲食店での食べ残しの持ち帰りを推奨していることについて知っているか伺ったところ、「知らない」が71.0% (1,775件)、「知っている」が29.0% (725件)であった。

図表 20 飲食店での食べ残し持ち帰りの推奨についての認知度



国や自治体等による飲食店での食べ残しの持ち帰りの推奨の認知度について、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて、持ち帰りの推奨の認知が高い傾向であった。

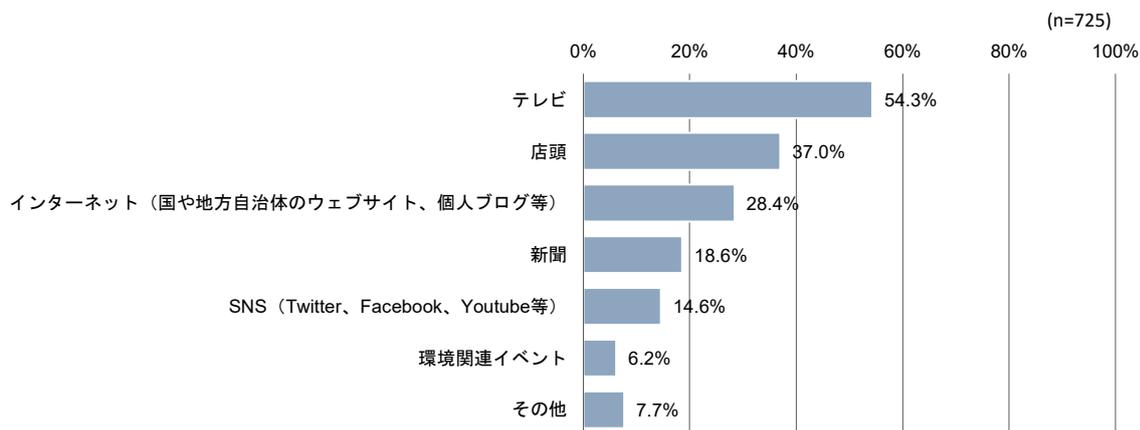
図表 21 飲食店での食べ残し持ち帰りの推奨についての認知度  
(2021年に持ち帰りの経験あり/なし)



### 3.2.2 飲食店での食べ残しの持ち帰りに関する認知機会

国や自治体等が、食品ロス削減のために飲食店での食べ残しの持ち帰りを推奨していることについて「知っている」と回答した725人に、どこで知ったかを伺ったところ、「テレビ」が最も多く54.3% (394件)、次いで「店頭」37.0% (268件)、「インターネット (国や地方自治体のウェブサイト、個人ブログ等)」28.4% (206件)、「新聞」18.6% (135件) と続く。

図表 22 飲食店での食べ残し持ち帰りに関する認知機会

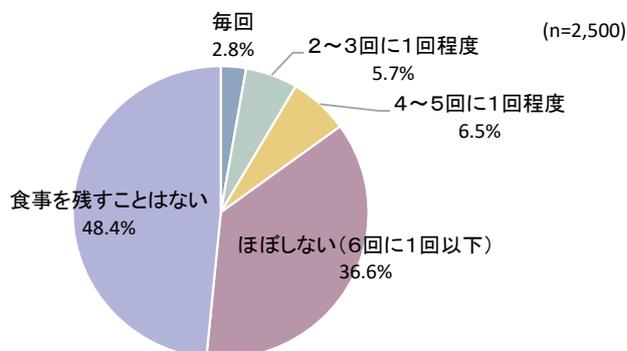


### 3.3 食べ残しの持ち帰り経験について

#### 3.3.1 飲食店での食べ残しの頻度

飲食店で食事をする際に、食べ残しをする頻度について伺ったところ、「食事を残すことはない」が最も多く48.4% (1,211件)、次いで「ほぼしない (6回に1回以下)」が36.6% (914件)、「4~5回に1回程度」が6.5% (163件)、「2~3回に1回程度」が5.7% (143件)、「毎回」は2.8% (69件)であった。

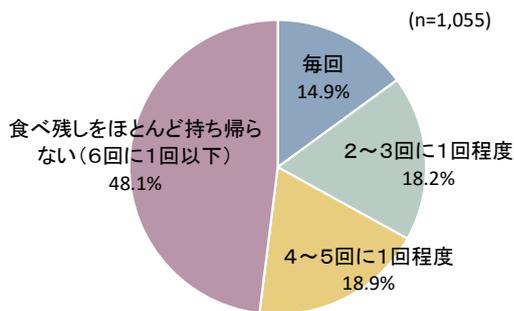
図表 23 飲食店での食べ残しの頻度



### 3.3.2 飲食店での食べ残しの持ち帰り頻度（持ち帰り経験あり）

2021年に食べ残しを持ち帰った経験があると回答した1,250名のうち、「3.3.1 飲食店での食べ残しの頻度」において「食事を残すことはない」と回答した人を除く1,055人に、食べ残しの持ち帰りの頻度について伺ったところ、「食事をほとんど持ち帰らない（6回に1回以下）」が最も多く48.1%（507件）、次いで「4～5回に1回程度」が18.9%（199件）、「2～3回に1回程度」が18.2%（192件）、「毎回」は14.9%（157件）であった。

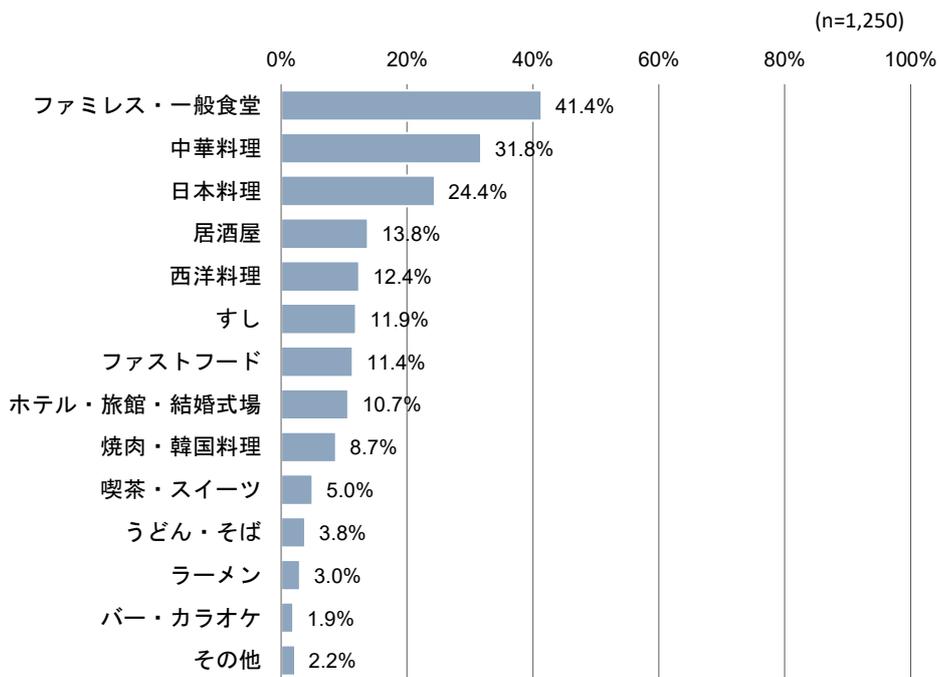
図表 24 飲食店での食べ残しの持ち帰り頻度（持ち帰り経験あり）



### 3.3.3 持ち帰りを行ったことがある飲食店（持ち帰り経験あり）

飲食店で食事をする際に食べ残しを持ち帰った経験があると回答した1,250人に、どのような場面での持ち帰りだったか伺ったところ、「ファミレス・一般食堂」が最も多く41.4%（518件）、次いで「中華料理」31.8%（397件）、「日本料理」24.4%（305件）、「居酒屋」13.8%（172件）、「西洋料理」12.4%（155件）と続いている。

図表 25 持ち帰りを行ったことがある飲食店（持ち帰り経験あり）



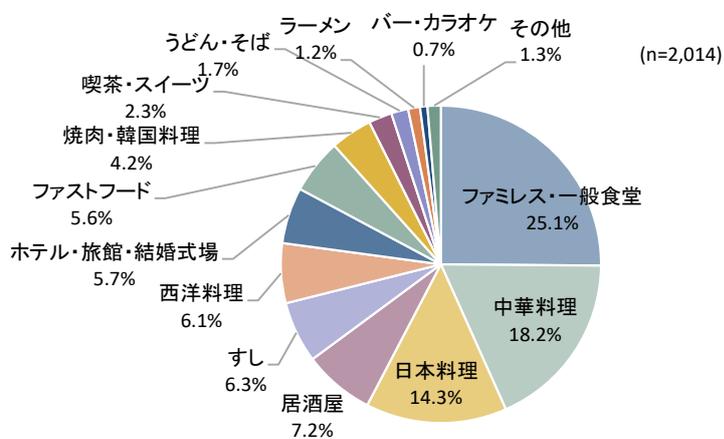
### 3.4 持ち帰りの具体的な状況

飲食店で食べ残しをして持ち帰った経験があると回答した 1,250 人に対し、具体的な持ち帰りの状況について、最大 3 つまで回答いただき、延べ 2,014 件の回答を得た。

#### (1) 飲食店の種類

食べ残しをして持ち帰った経験のうち、具体的な状況を回答していただいた飲食店の種類は、「ファミレス・一般食堂」が 25.1% (506 件)、次いで「中華料理」18.2% (367 件)、「日本料理」14.3% (287 件)、「居酒屋」7.2% (145 件) と続いている。

図表 26 飲食店の種類 (持ち帰りを行った具体的な状況)

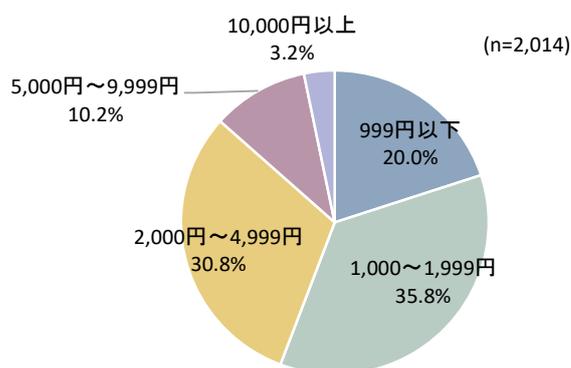


以下では、ここで選択した飲食店での経験について、持ち帰りを行った具体的な状況を聞いている。

## (2) 一人当たりの食事の金額

一人当たりの食事の金額については、「1,000～1,999 円」が最も多く 35.8% (721 件)、次いで「2,000 円～4,999 円」30.8% (621 件)、「999 円以下」20.0% (402 件)、「5,000 円～9,999 円」10.2% (205 件) となっている。

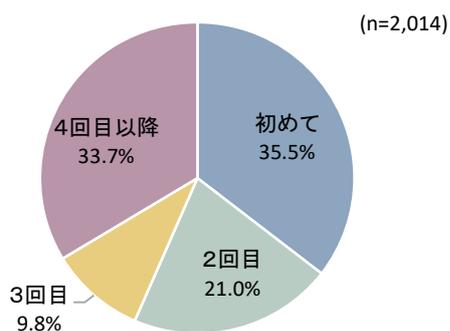
図表 27 一人当たりの食事の金額（持ち帰りを行った具体的な状況）



## (3) 持ち帰り時の当該飲食店への来店回数

当該飲食店への来店回数については、「初めて」が最も多く 35.5% (715 件)、次いで「4回目以降」33.7% (678 件)、「2回目」21.0% (423 件)、「3回目」9.8% (198 件) となっている。

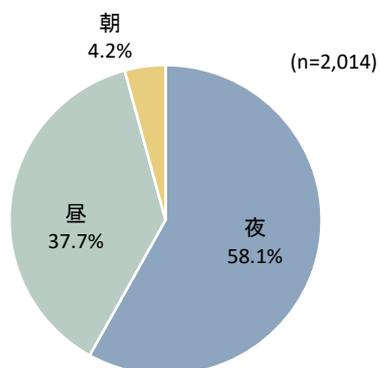
図表 28 持ち帰り時の当該飲食店への来店回数（持ち帰りを行った具体的な状況）



#### (4) 来店の時間帯

来店の時間帯については、「夜」が最も多く 58.1% (1,170 件)、次いで「昼」 37.7% (759 件)、「朝」 4.2% (85 件) であった。

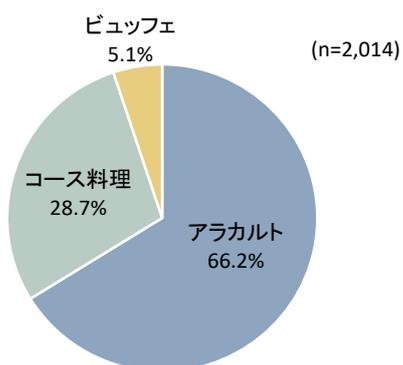
図表 29 来店の時間帯 (持ち帰りを行った具体的な状況)



#### (5) 食事の提供形態

食事の提供形態については、「アラカルト」が最も多く 66.2% (1,333 件)、次いで「コース料理」 28.7% (578 件)、「ビュッフェ」 5.1% (103 件) となっている。

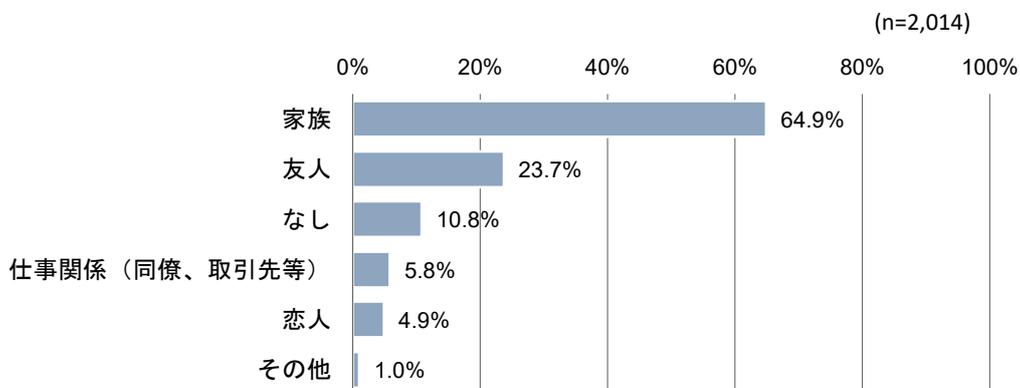
図表 30 食事の提供形態 (持ち帰りを行った具体的な状況)



## (6) 同伴者、同伴者数の人数

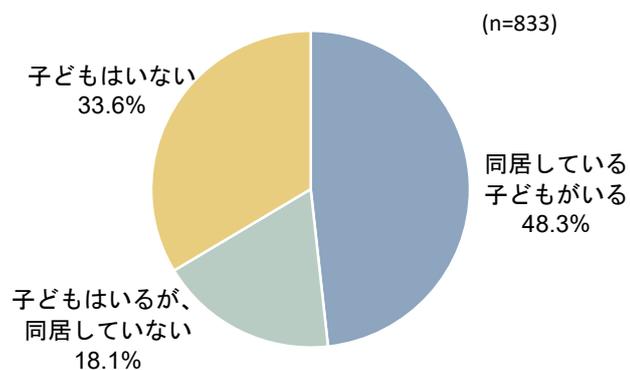
同伴者については、「家族」が最も多く 64.9% (1,308 件)、次いで「友人」が 23.7% (477 件)、「なし」が 10.8% (218 件) と続いている。

図表 31 同伴者（持ち帰りを行った具体的な状況）



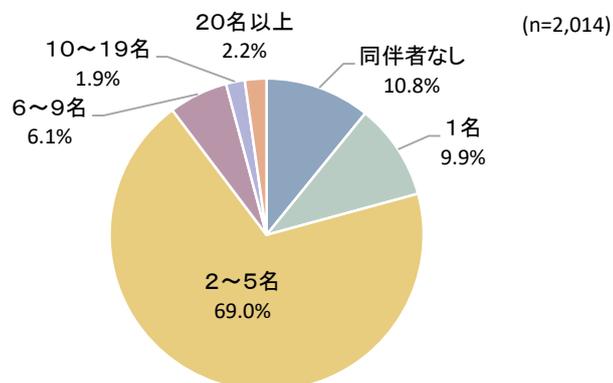
上記設問において、同伴者が「家族」と回答した人の属性を整理すると、「同居している子どもがいる」が 48.3%、「子どもはいない」が 33.6%、「子どもはいるが、同居していない」が 18.1% であった。

図表 32 同伴者が「家族」と回答した人の属性（持ち帰りを行った具体的な状況）



同伴者の人数については、「2～5名」が最も多く 69.0% (1,389 件)、次いで「同伴者なし」が 10.8% (218 件)、「1名」9.9% (200 件)、「6～9名」6.1% (123 件) となっている。

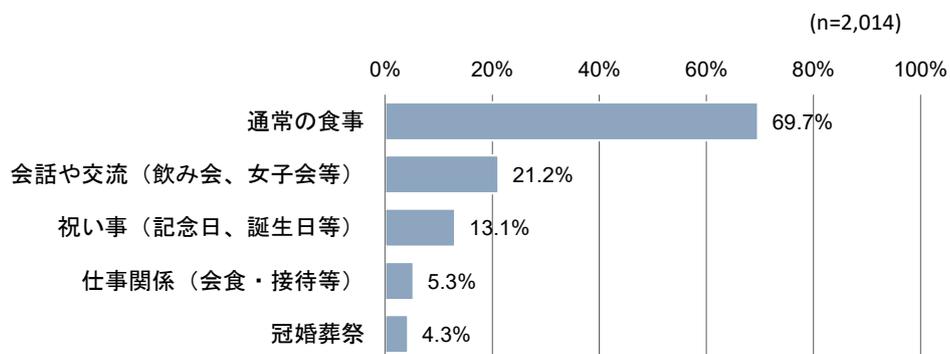
図表 33 同伴者の人数（持ち帰りを行った具体的な状況）



#### (7) 食事の目的（複数回答）

食事の目的については、「通常の食事」が最も多く 69.7% (1,403 件)、次いで「会話や交流（飲み会、女子会等）」21.2% (427 件)、「祝い事（記念日、誕生日等）」13.1% (263 件) と続いている。

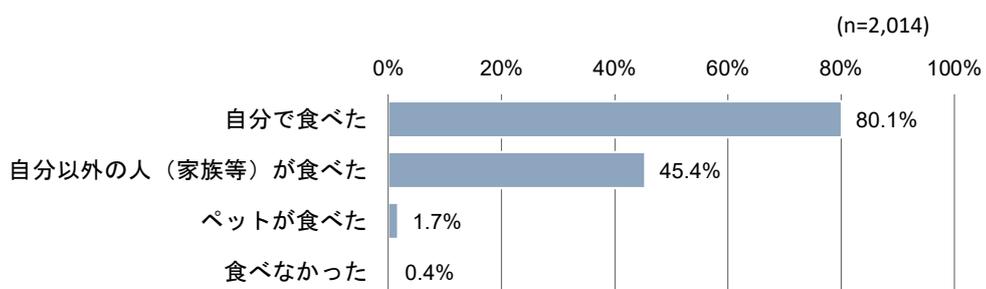
図表 34 食事の目的（持ち帰りを行った具体的な状況）



## (8) 持ち帰った食品の喫食

持ち帰った食品の喫食については、「自分で食べた」が最も多く 80.1% (1,613 件)、次いで「自分以外の人 (家族等) が食べた」45.4% (914 件)、「ペットが食べた」1.7% (34 件)、「食べなかった」0.4% (9 件) となっている。

図表 35 持ち帰った食品の喫食 (持ち帰りを行った具体的な状況)

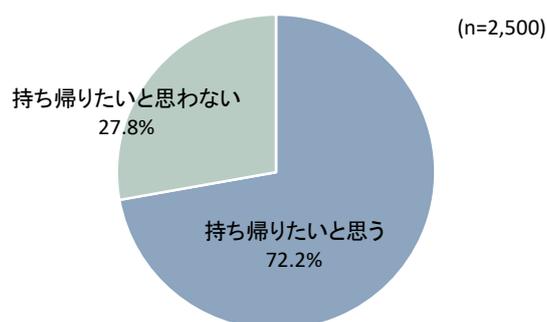


### 3.5 食べ残しの持ち帰りの意向について

#### 3.5.1 食べ残しの持ち帰り意向について

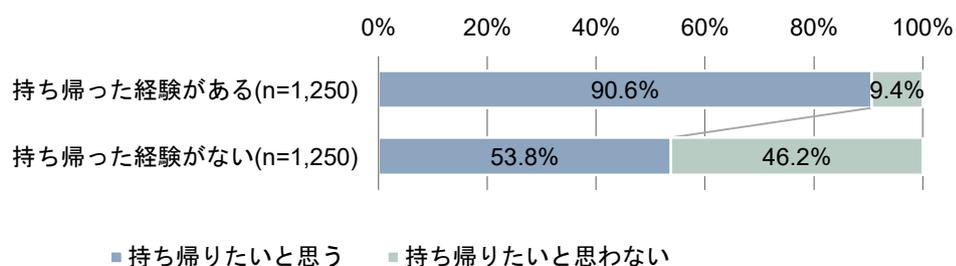
飲食店で食べ残しをした際に、食べ残しを持ち帰りたいと思うか伺ったところ、「持ち帰りたいと思う」が72.2%（1,805件）、「持ち帰りたいと思わない」が27.8%（695件）であった。

図表 36 食べ残しの持ち帰り意向について



飲食店で食べ残しをした際に、食べ残しを持ち帰りたいと思うかについて、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて「持ち帰りたいと思う」意向が高い傾向にあった（36.8ポイントの差）。

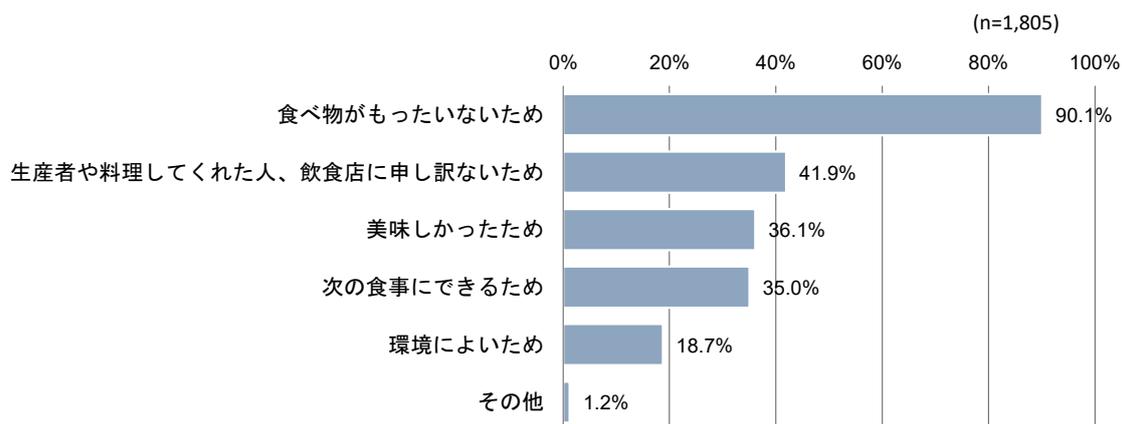
図表 37 食べ残しの持ち帰り意向について  
(2021年に持ち帰りの経験あり/なし)



### 3.5.2 食べ残しを持ち帰りたと思う理由について

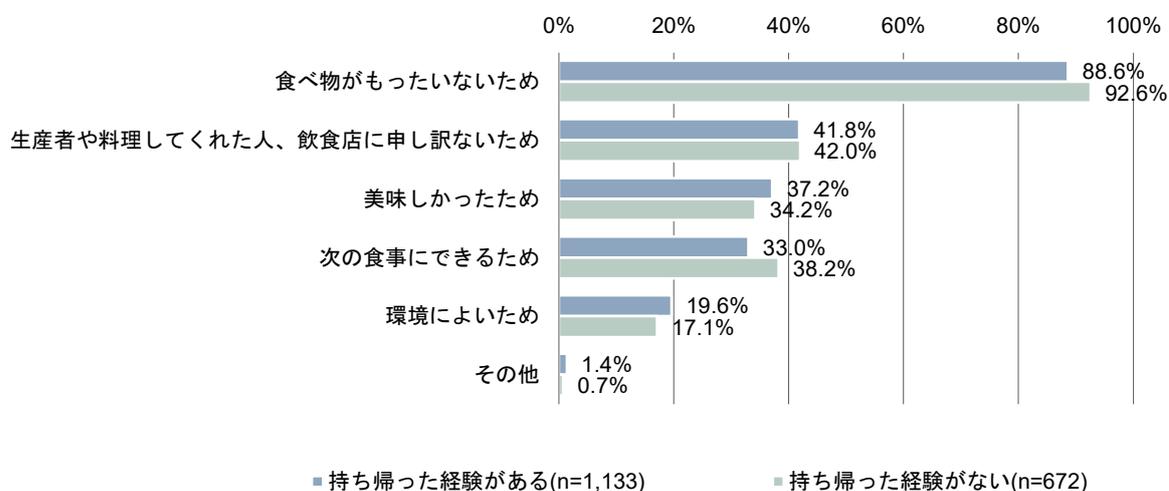
食べ残しを「持ち帰りたと思う」と回答した 1,805 人に、食べ残しを持ち帰りたと思う理由について複数回答で伺ったところ、「食べ物がもったいないため」が最も多く 90.1% (1,626 件)、次いで「生産者や料理してくれた人、飲食店に申し訳ないため」41.9% (756 件)、「美味しかったため」36.1% (651 件)、「次の食事にできるため」35.0% (631 件)、「環境によいため」18.7% (337 件) と続いている。

図表 38 食べ残しを持ち帰りたと思う理由について



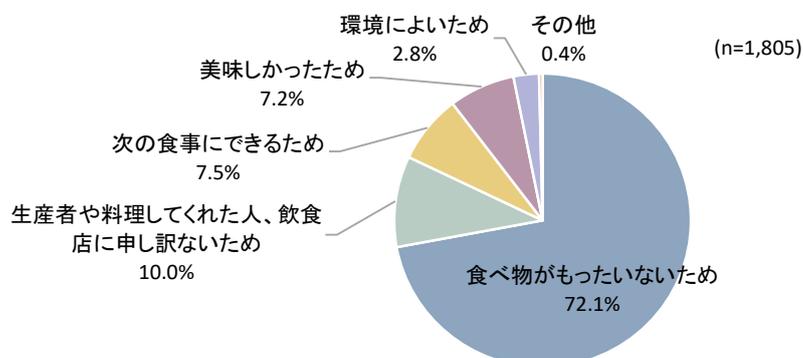
食べ残しを持ち帰りたと思う理由について、2021 年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「食べ物がもったいないため」との回答が最も多い。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて「美味しかったため」(3.0 ポイントの差)と回答した人が多い傾向にあった。また、「持ち帰った経験がない」人の方が「持ち帰った経験がある」人に比べて「食べ物がもったいないため」(4.0 ポイントの差)、「次の食事にできるため」(5.2 ポイントの差)と回答した人が多い傾向にあった。

図表 39 食べ残しを持ち帰りたと思う理由について  
(2021 年に持ち帰りの経験あり/なし)



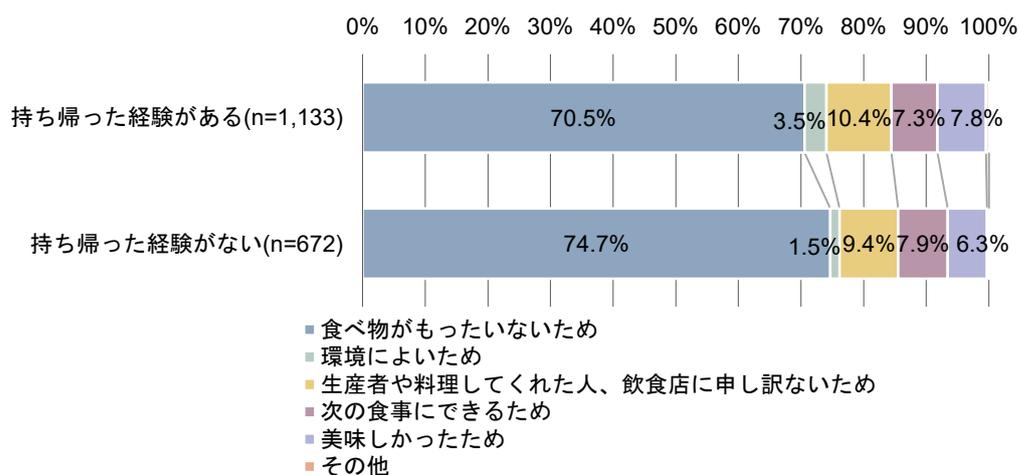
さらに、食べ残しを持ち帰りしたいと思う最も大きな理由については、「食べ物がもったいないため」が最も多く 72.1% (1,301 件)、次いで「生産者や料理してくれた人、飲食店に申し訳ないため」10.0% (181 件)、「次の食事にできるため」7.5% (136 件)、「美味しかったため」7.2% (130 件)、「環境によいため」2.8% (50 件) と続いている。

図表 40 食べ残しを持ち帰りしたいと思う理由について (最大の理由)



食べ残しを持ち帰りしたいと思う最大の理由について、2021 年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「食べ物がもったいないため」との回答が最も多い。「持ち帰った経験がある」人と「持ち帰った経験がない」人で傾向に大きな差は確認されないが、「持ち帰った経験がない」人の方が「持ち帰った経験がある」人に比べて「食べ物がもったいないため」(4.2 ポイントの差) と回答した人が多い傾向にあった。

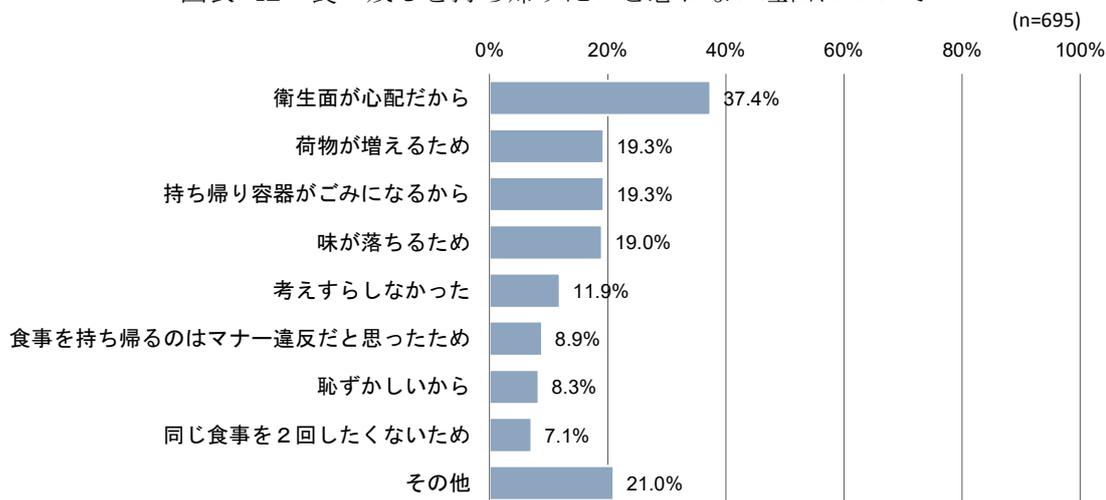
図表 41 食べ残しを持ち帰りしたいと思う最大の理由について (2021 年に持ち帰りの経験あり/なし)



### 3.5.3 食べ残しを持ち帰りたいと思わない理由について

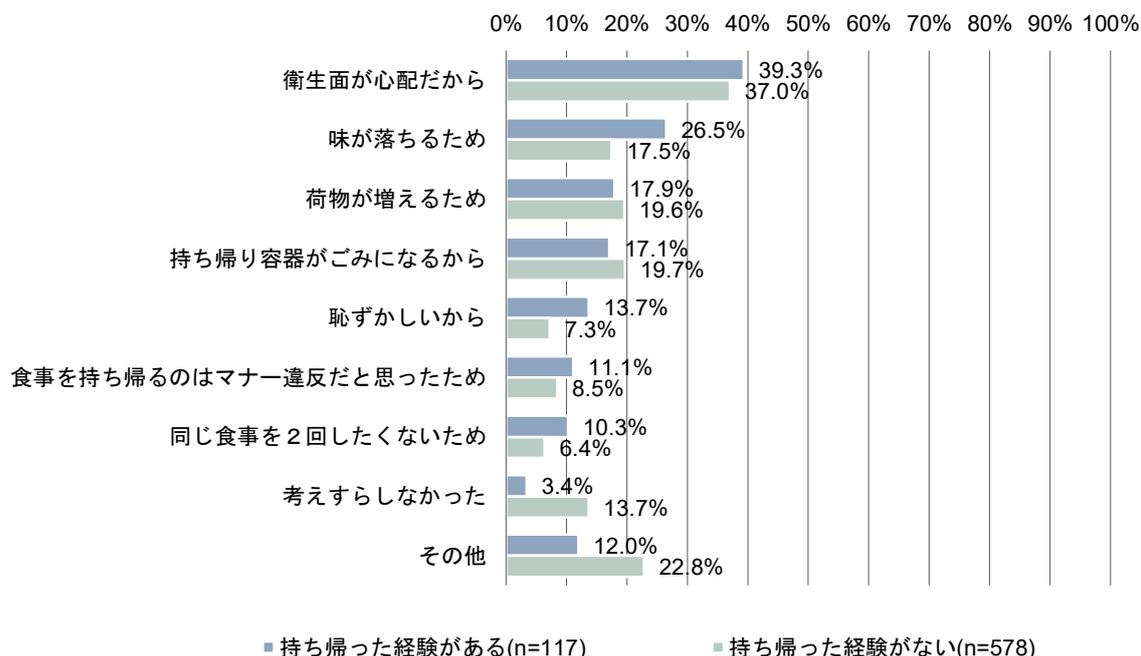
食べ残しを「持ち帰りたいと思わない」と回答した 695 人に、食べ残しを持ち帰りたいと思わない理由について複数回答で伺ったところ、「衛生面が心配だから」が最も多く 37.4% (260 件)、次いで「荷物が増えるため」と「持ち帰り容器がごみになるから」がいずれも 19.3% (134 件)、「味が落ちるため」19.0% (132 件) と続いている。

図表 42 食べ残しを持ち帰りたいと思わない理由について



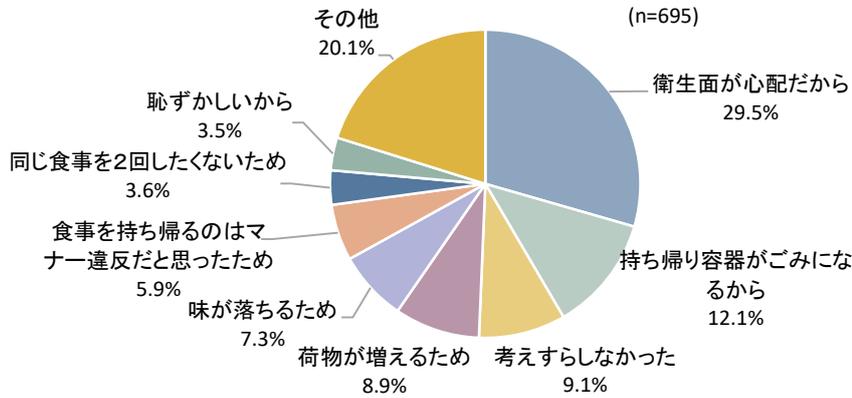
食べ残しを持ち帰りたいと思わない理由について、2021 年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「衛生面が心配だから」との回答が最も多い。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて「味が落ちるため」(9.0 ポイントの差)、「恥ずかしいから」(6.4 ポイントの差)、「同じ食事を 2 回したくないため」(3.9 ポイントの差) と回答した人が多い傾向にあった。また「持ち帰った経験がない」人の方が「持ち帰った経験がある」人に比べて「考えずらしなかった」(10.3 ポイントの差) と回答した人が多い傾向にあった。

図表 43 食べ残しを持ち帰りたいと思わない理由について  
(2021 年に持ち帰りの経験あり/なし)



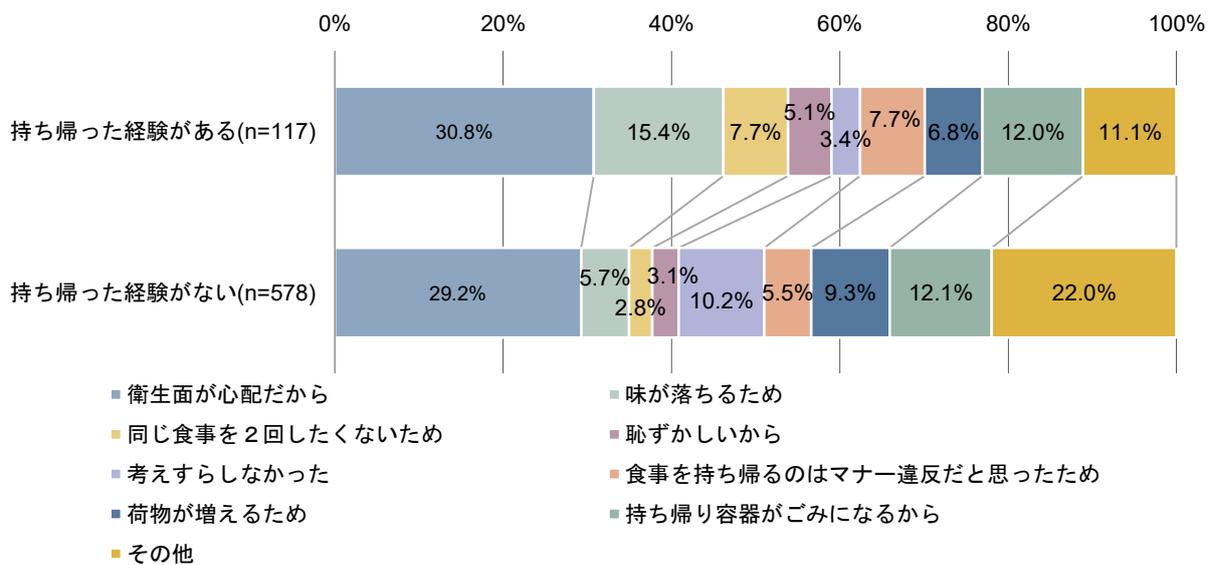
さらに、食べ残しを持ち帰りたくないと思わない最も大きな理由については、「衛生面が心配だから」が最も多く 29.5% (205 件)、次いで「持ち帰り容器がごみになるから」12.1% (84 件)、「考えずらしなかった」9.1% (63 件)、「荷物が増えるため」8.9% (62 件)、「味が落ちるため」7.3% (51 件)と続いている。

図表 44 食べ残しを持ち帰りたくないと思わない理由について (最大の理由)



食べ残しを持ち帰りたくないと思わない最大の理由について、2021 年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「衛生面が心配だから」との回答が最も多い。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて「味が落ちるため」(9.7 ポイントの差)、「同じ食事を 2 回したくないため」(4.9 ポイントの差)と回答した人が多い傾向にあった。また「持ち帰った経験がない」人の方が「持ち帰った経験がある」人に比べて「考えずらしなかった」(6.8 ポイントの差)と回答した人が多い傾向にあった。

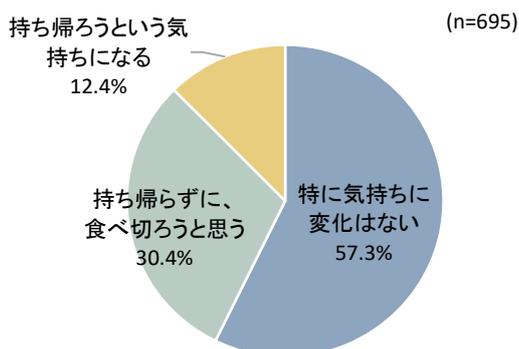
図表 45 食べ残しを持ち帰りたくないと思わない最大の理由について (2021 年に持ち帰りの経験あり/なし)



### 3.5.4 飲食店から持ち帰りができる旨を伝えられた場合の意向

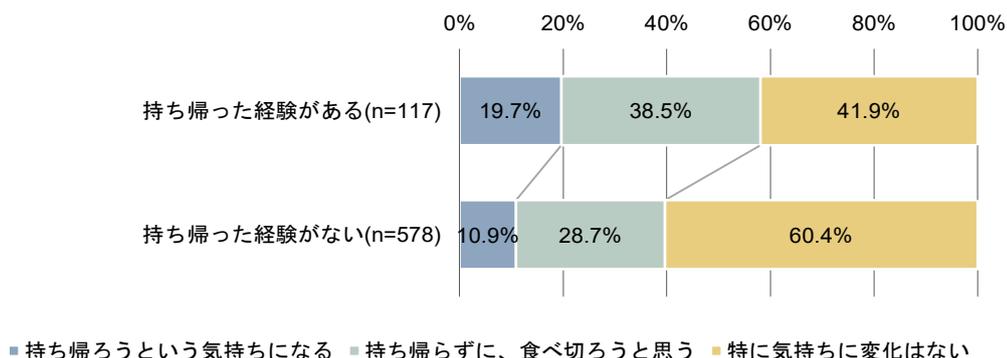
食べ残しを持ち帰りたいたと思わないと回答した方に、飲食店側から持ち帰りができる旨を伝えられた場合、持ち帰ろうという気持ちになるか伺ったところ、「特に気持ちに変化はない」が最も多く 57.3% (398 件)、次いで「持ち帰らずに、食べ切ろうと思う」30.4% (211 件)、「持ち帰ろうという気持ちになる」12.4% (86 件) となっている。

図表 46 飲食店から持ち帰りができる旨を伝えられた場合の意向



飲食店から持ち帰りができる旨を伝えられた場合の意向について、2021 年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「特に気持ちに変化はない」との回答が最も多かった。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて「持ち帰ろうという気持ちになる」(8.8 ポイントの差) 及び「持ち帰らずに、食べ切ろうと思う」(9.8 ポイントの差) と回答した人が多い傾向にあった。

図表 47 飲食店から持ち帰りができる旨を伝えられた場合の意向  
(2021 年に持ち帰りの経験あり/なし)

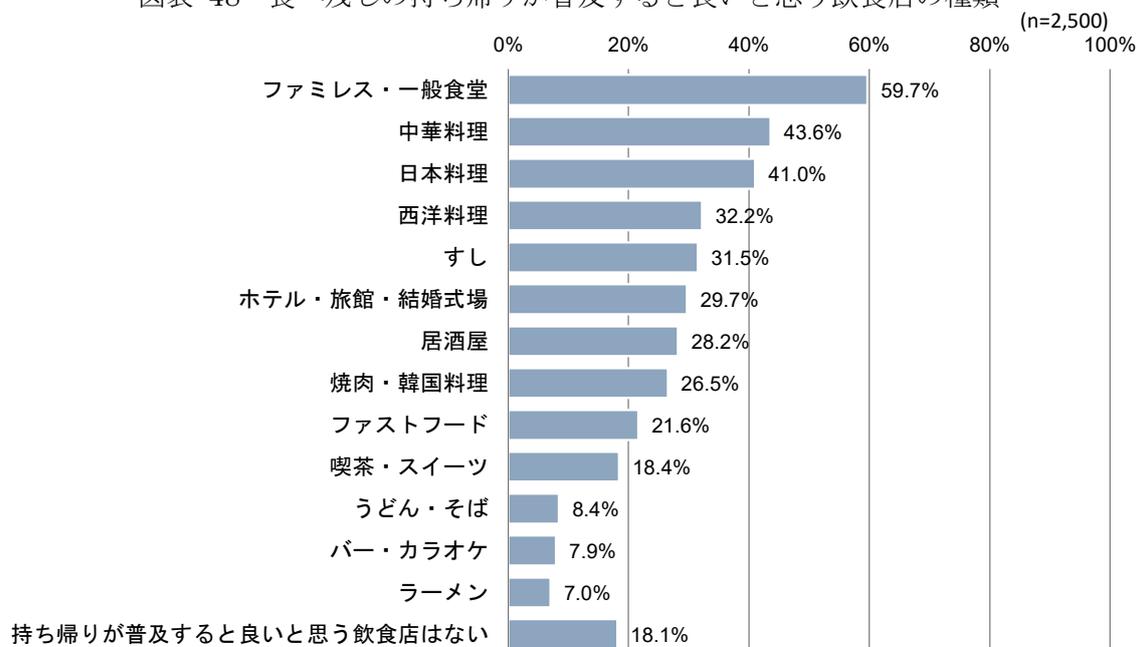


### 3.6 食べ残しの持ち帰りの普及について

#### 3.6.1 食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類

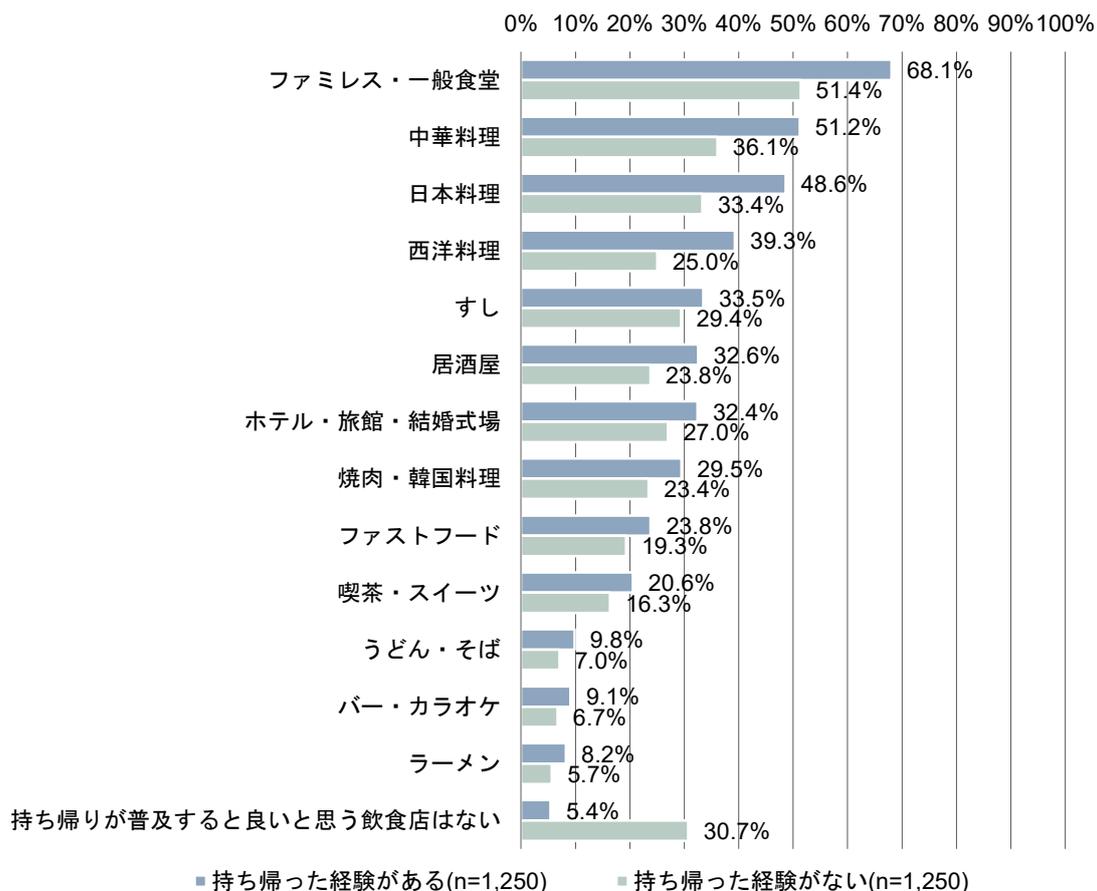
食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類について複数回答で伺ったところ、「ファミレス・一般食堂」が最も多く 59.7% (1,493 件)、次いで「中華料理」43.6% (1,091 件)、「日本料理」41.0% (1,025 件)、「西洋料理」32.2% (804 件)と続いている。

図表 48 食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類



食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類について、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。「持ち帰った経験がある」と回答した人の方が「持ち帰った経験がない」と回答した人に比べて飲食店の種類を回答する人が多い傾向にあった。また「持ち帰った経験がない」と回答した人の方が「持ち帰った経験がある」と回答した人に比べて「持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店はない」と回答した人が多い傾向にあった。

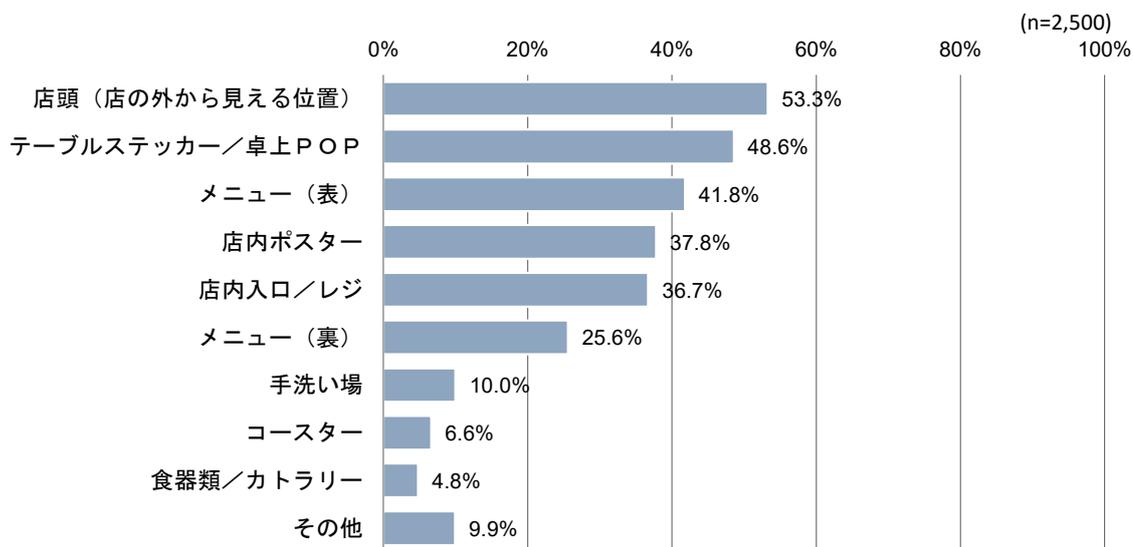
図表 49 食べ残しの持ち帰りが普及すると良いと思う飲食店の種類  
(2021年に持ち帰りの経験あり／なし)



### 3.6.2 「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージの掲示場所について

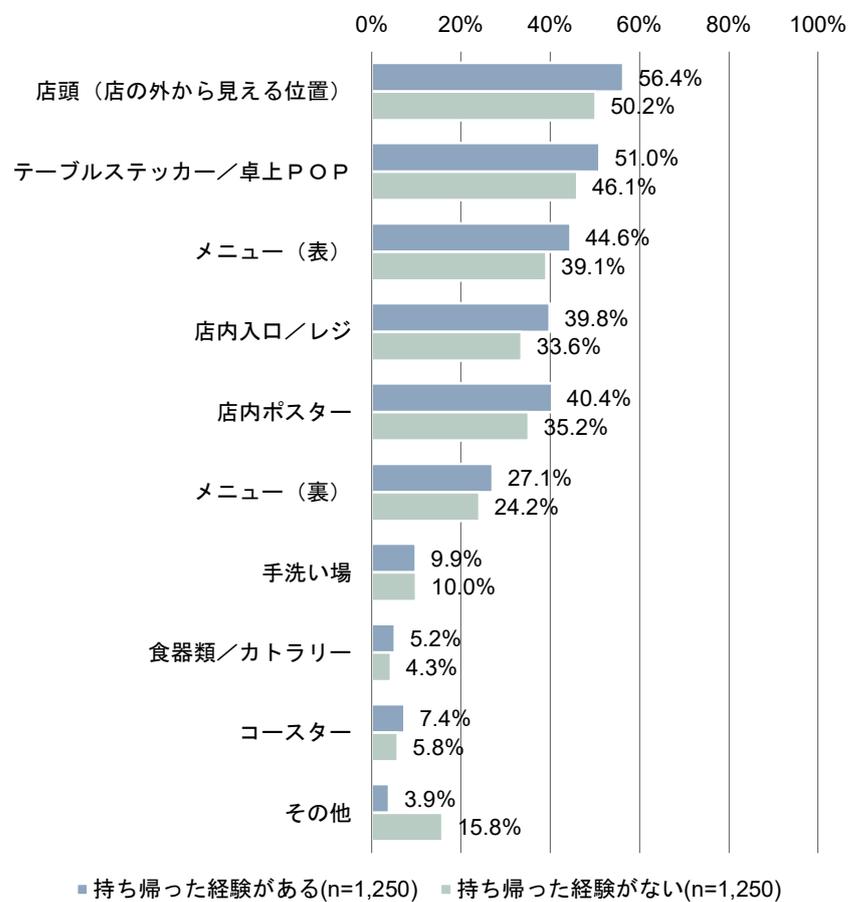
「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージについて、店内のどの場所に表示がされていると、持ち帰る人が増えると思うかについては、「店頭（店の外から見える位置）」が最も多く 53.3% (1,332 件)、次いで「テーブルステッカー／卓上POP」48.6% (1,214 件)、「メニュー（表）」41.8% (1,046 件)、「店内ポスター」37.8% (945 件)、「店内入口／レジ」36.7% (918 件) となっている。

図表 50 「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージの掲示場所について



「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージの掲示場所について、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「店頭（店の外から見える位置）」との回答が最も多かった。「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて「店頭（店の外から見える位置）」(6.2ポイントの差)、「店内入口/レジ」(6.2ポイントの差)、「メニュー（表）」(5.5ポイントの差)、「店内ポスター」(5.2ポイントの差)、「テーブルステッカー/卓上POP」(4.9ポイントの差)と回答した人が多い傾向にあった。また「持ち帰った経験がない」と回答した人の方が「持ち帰った経験がある」と回答した人に比べて「その他」(11.9ポイントの差)と回答した人が多い傾向にあった。

図表 51 「食べ残しの持ち帰りが可能」というメッセージの掲示場所について  
(2021年に持ち帰りの経験あり/なし)



### 3.6.3 食べ残しを持ち帰りたいと思うメッセージについて

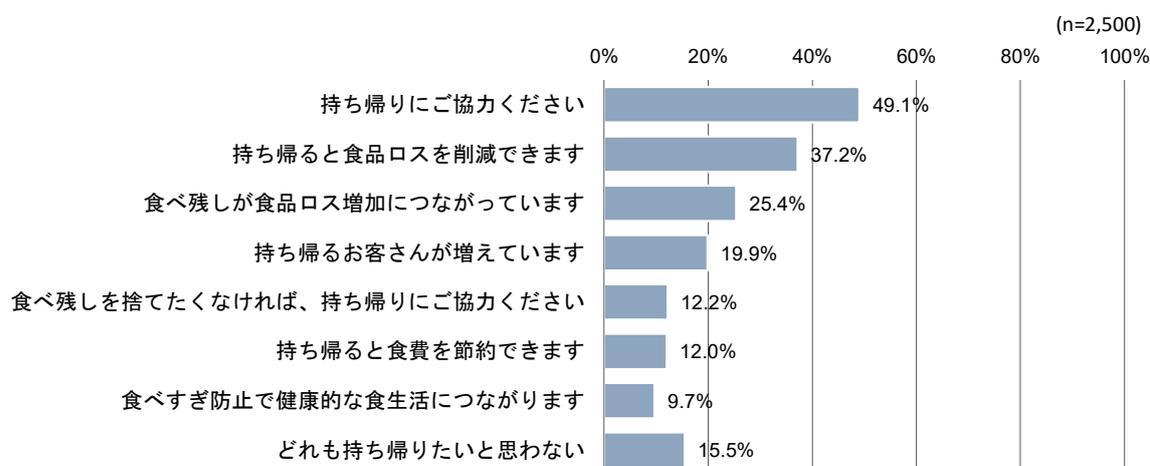
食べ残しを持ち帰り行動を促進する効果的なメッセージを検証することを目的として、以下の7パターンの異なるメッセージを提示した。

- ◇ 持ち帰りにご協力ください【対照群】
- ◇ 持ち帰るお客さんが増えています【社会規範】
- ◇ 食べ残しが食品ロス増加につながっています【損失フレーミング】
- ◇ 持ち帰ると食品ロスを削減できます【利得フレーミング①】
- ◇ 持ち帰ると食費を節約できます【利得フレーミング②】
- ◇ 食べすぎ防止で健康的な食生活につながります【利得フレーミング③】
- ◇ 食べ残しを捨てたくなければ、持ち帰りにご協力ください【互惠性】

食べ残しを持ち帰りたいと思うメッセージを複数回答で伺ったところ、「持ち帰りにご協力ください」が最も多く 49.1% (1,228 件)、次いで「持ち帰ると食品ロスを削減できます」37.2% (929 件)、「食べ残しが食品ロス増加につながっています」25.4% (636 件)、「持ち帰るお客さんが増えています」19.9% (498 件) と続いている。

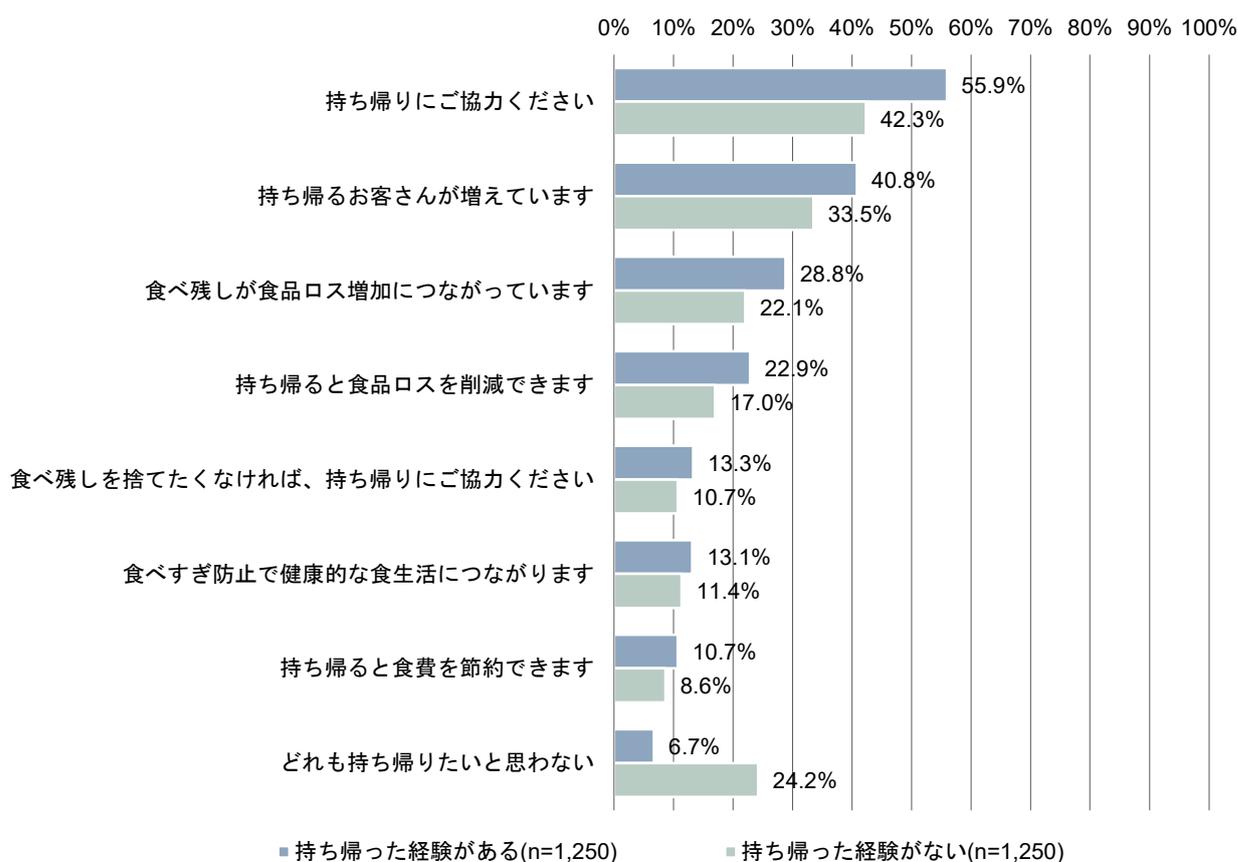
また、「どれも持ち帰りたいとは思わない」との回答は 15.5% (387 件) であった。

図表 52 食べ残しを持ち帰りたいと思うメッセージについて



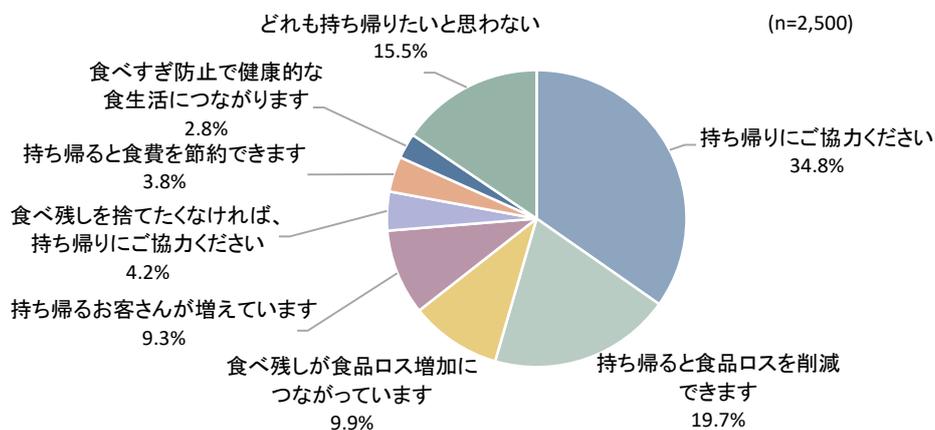
食べ残しを持ち帰りたと思うメッセージについて、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。いずれも「持ち帰りにご協力ください」と回答した人が最も多かった。「持ち帰り経験がある」と回答した人の方が「持ち帰り経験がない」と回答した人に比べていずれかのメッセージ（選択肢）を選択する人が多い傾向にあり、「持ち帰り経験がない」と回答した人の方が「持ち帰り経験がある」と回答した人に比べて「どれも持ち帰りたと思わない」（17.5ポイントの差）と回答した人が多かった。

図表 53 食べ残しを持ち帰りたと思うメッセージについて  
(2021年に持ち帰りの経験あり/なし)



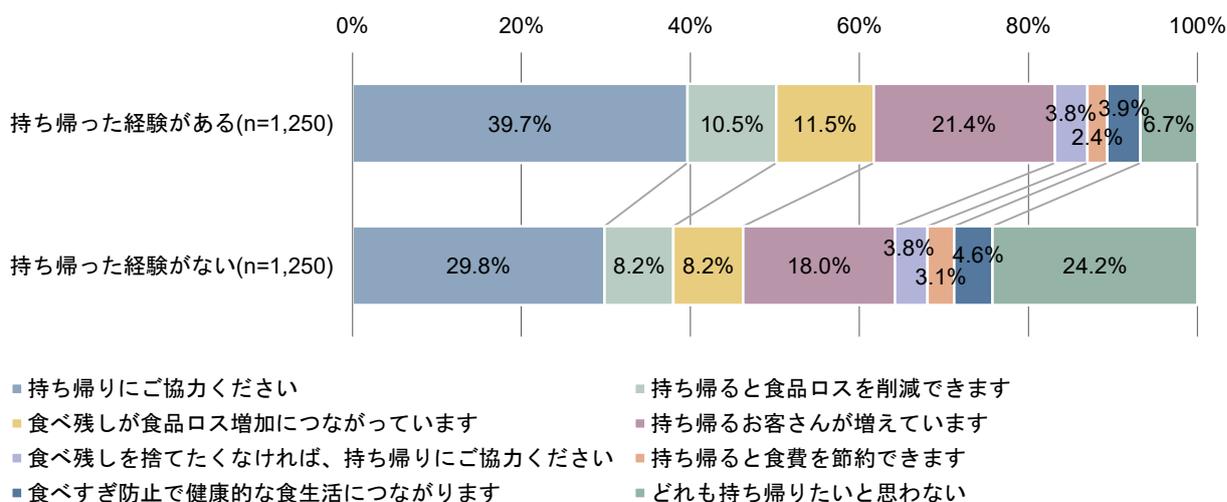
さらに、このうち最も持ち帰りしたいと思うメッセージについては、「持ち帰りにご協力ください」が最も多く 34.8% (869 件)、次いで「持ち帰ると食品ロスを削減できます」 19.7% (493 件)、「食べ残しが食品ロス増加につながっています」 9.9% (247 件)、「持ち帰るお客さんが増えています」 9.3% (233 件) と続いている。

図表 54 食べ残しを持ち帰りしたいと思うメッセージについて (最も持ち帰りしたいと思うもの)



食べ残しを持ち帰りしたいと思うメッセージのうち、最も持ち帰りしたいと思うものについて、2021年の持ち帰り経験の有無に応じてクロス集計分析を行った。多くの項目で「持ち帰った経験がある」人の方が「持ち帰った経験がない」人に比べて回答者数が多い傾向が見られたが、「持ち帰ると食費を節約できます」及び「食べ過ぎ防止で健康的な食生活につながります」については、「持ち帰った経験がない」人の方が「持ち帰った経験がある」人に比べて回答した人がわずかに多い傾向にあった (いずれも 0.7 ポイントの差)。

図表 55 最も食べ残しを持ち帰りしたいと思うメッセージについて (2021年に持ち帰りの経験あり/なし)



(以上)